

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

福井県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血数: 1,700人/年 献血率: 5.6%	学校献血(受入)	継続	高校、大学等	4月～3月	15	各学校	オリジナルファイル+αな粗品進呈
	献血セミナー	継続	高校生	毎月	20	各学校	血液・輸血・献血を知ってもらう場として、記念品進呈
	高2生への周知	継続	全高校2年生	2月初旬	1	紙面1P(B5,カラー)	全ての高2生(約8,000名)に配布されるガイドブック掲載
20代の献血者及び献血率の目標値 献血数: 6,400人/年 献血率: 8.8%	3人でいっしょに献血	継続	大学(生、関係者)	4月～3月	12	各大学	献血受付に3人(複数)で来て頂き、お菓子進呈
	学生連盟イベント	継続	大学等	9月頃	1	イベント会場	学生献血推進連盟が主となり、同世代への周知イベント
	新成人おめでとう	継続	はたちの者	1月(成人式)	1	各会場での配布	新成人に、血液センター(献血)を周知するためのチラシ等
その他の目標値 集客: 400～500人、献血: 2割	献血感謝祭	継続	10代・20代	8月(または3月)	1	イベント会場	過去1年間に献血(10代・20代)者に、抽選でイベント招待
	親子見学会	継続	小学生	7・8月	4	母体	100組親子200名

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
1000	献血紹介カード	新規	従業員	毎月	200	各事業所(リスト無)	従業員数が多いが、今一献血数が伸びない企業向け紹介者と献血者に粗品を進呈
1000	ガラポン抽選	継続	従業員	毎月	200	各事業所(リスト有)	サポーター登録企業&多くの献血協力がある企業向けプレミアムな粗品(1回: 極小数)、ハズレはボケッティジュ
100	献血セミナー	継続	衛生委員	4月～3月	10	各事業所	月1回の安全・衛生委員会で実施し、職員へ周知願う

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

福井県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血率を31%(年度) (H24年: 29.2%)	感謝の集い	継続	会員	12又は1月	1	複数回献血クラブ員に対して、抽選で映画試写会に招待(100組200名)
その他の目標値 会員数: 月/100人(年間1,200人確保)	登録推進	新規	母体献血者	毎開設日		チラシを作製し、複数回献血クラブへの加入要請と共に「予約システム」の周知

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
集客: 50～100人	健康増進事業	新規	比重落ち者等	8月中旬(献血記念日)	1	比重落ち(献血者を含む)者へのヘルスケアとして、地産地消の食材を使った料理教室(健康食を紹介・試食会)を開催

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

岐阜県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 5.9%	献血セミナー	継続	高校生	平成25年4月～平成26年3月	10回	高校	学校に赴き出前講座を行う。
	いっしょに献血キャンペーン	継続	大学・短大・専門学校生	平成25年4月～平成26年3月	20回	各大学	2人以上連れだつて献血に来た方に記念品を配布するキャンペーン
	学生ボランティア主催サマー・クリスマスキャンペーン	継続	若年層	平成25年8月・12月	2回	移動採血車献血会場	学生ボランティアの企画によるキャンペーン
20代の献血者及び献血率の目標値 6.9%	いっしょに献血キャンペーン	継続	大学・短大・専門学校生	平成25年4月～平成26年3月	20回	各大学	2人以上連れだつて献血に来た方に記念品を配布するキャンペーン
	学生ボランティアによりサマー・クリスマスキャンペーン	継続	若年層	平成25年8月・12月	2回	移動採血車献血会場	学生ボランティアの企画によるキャンペーン

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠団体献血実施10社	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	平成25年4月～平成26年3月		各事業所等	県内の企業・団体を訪問し、主に移動採血車での全血献血の協力を依頼する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 現状32%の複数回献血者を35%まで増加させる。	電子メール、はがきによる協力依頼	継続	年1回の献血者	平成25年4月～平成26年3月		電子メールやはがきによる複数回の献血協力依頼を行う。	
	複数回献血クラブ会員増強キャンペーン	新規	献血者	平成25年4月～平成26年3月		複数回献血クラブ会員を増やすためリーフレットを作成し現場で加入した献血者に対して記念品を配布する。	
	複数回献血キャンペーン	継続	献血者	平成25年8月～平成26年3月		一定期間に協力いただいた方で、指定の期間に再度協力いただいた方に記念品を配布し、年2回以上の献血を促す。	

エ. その他

岐阜県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
400mL献血率を平成24年度目標の84%から88%にする。	400mL献血推進強化対策	継続	献血者	平成25年4月～平成26年3月		400mL限定や200mL制限会場を設ける。推進団体に対し400mL献血推進を進める。400mL献血実施可能な高等学校を平成24年度の5校から10校まで増加させる。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

静岡県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 9,500人 5.4%(人口構成比平成24年3月末参考)	若年層確保対策	継続	大学・専門学校	4月～7月、9月～1月	1	大学・専門学校	1629プロジェクトの継続
	高等学校献血対策	継続	高等学校	4月～7月、9月～12月	80	高等学校	献血セミナーの実施、校内献血実施、400献血推進
	高校生ラジオリレー	新規	ラジオリスナー	10月～3月	18	ラジオ	高校生から電波を通じて献血とは？から必要性等を訴える
20代の献血者及び献血率の目標値 28,500人 7.5%(人口構成比平成24年3月末参考)	若年層確保対策	継続	大学・専門学校	4月～7月、9月～1月	1	大学・専門学校	1629プロジェクトの継続
	キャンパス献血キャンペーン	新規	大学	5～7月、10～12月	9	大学内	大学内献血でイベントを実施し、記念品を進呈する
	学生献血キャンペーン	継続	一般	7月、12月、1月、3月	12	イベント会場	各季節ごと(サマー、オータム、スプリング、クリスマス)のキャンペーンにあわせて同世代の若者からの呼びかけイベントを実施する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
職業別献血者「会社員」を前年実績の1%増加	企業献血強化対策	新規	企業	4月～6月	150	実施期間中の献血協力事業所	企業内での献血協力時に新入社員対象に広報展開、記念品の進呈

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

静岡県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 新規登録者数4000人増で 総会員数を約14000人にする	複数回献血推進	新規	未加入献血者	4月～7月	1	献血カードケースに献血会場等の情報にアクセスできるQRコードを付けた記念品を配布する	
	複数回献血推進	継続	未加入献血者	4月～3月	1	推進用のリーフレットの配布、加入者に記念品の配布、情報発信	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
全血献血400mL献血比率の増加 90.9%以上を目標	カムカムキャンペーン	継続	400mL献血者	6月～3月	1	献血者にキャンペーンカードを配布し、次回400mL献血に協力していただくことにより、冬場の献血者増加を図る	
平成25年度の60代献血者の構成比を0.5%まで増加させる	終わらない献血	新規	一般	10月～3月	1	60～65歳の事業所で献血協力者にハガキ等のDMで69歳まで継続的な献血を案内する	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

愛知県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血率を6.2%にする。	学生連盟主催献血キャンペーン	継続	大学生等	8月、12月、3月	3	イベント献血会場 同世代に献血啓発のイベントを行いながら献血を呼び掛ける。サマー献血(8月)、クリスマス献血(12月)、スプリング献血(3月)
	卒業献血の推進	継続	高校3年生	12月～2月		卒業という記念日を献血の契機と位置付け献血セミナー等を開催し、学内献血における400mL献血の推進
	大学・専門学校における献血推進	継続	大学生・専門学校生	4月～7月、9月～3月		各学校 大学では学生献血連盟に所属する大学を主体として学内献血を実施し、専門学校では献血セミナー等を開催し、献血協力校70校を目指す。
	初回・紹介者キャンペーン	継続	17歳～29歳	未定	1	初回は全献血会場、紹介は主に固定施設 17歳から29歳の初回献血者に記念品配布、17歳～29歳の献血者を紹介した献血者に記念品配布(本社予算)
20代の献血率を8.2%にする。	学生連盟主催献血キャンペーン	継続	大学生等	8月、12月、3月	3	イベント献血会場 同世代に献血啓発のイベントを行いながら献血を呼び掛ける。サマー献血(8月)、クリスマス献血(12月)、スプリング献血(3月)
	大学・専門学校における献血推進	継続	大学生・専門学校生	4月～7月、9月～3月		各学校 大学では学生献血連盟に所属する大学を主体として学内献血を実施し、専門学校では献血セミナー等を開催し、献血協力校70校を目指す。
	初回・紹介者キャンペーン	継続	17歳～29歳	未定	1	各学校 17歳から29歳の初回献血者に記念品配布、17歳～29歳の献血者を紹介した献血者に記念品配布(本社予算)

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠団体・複数回献血実施30社	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施企業・団体 休眠企業・団体 年1回協力企業・団体	4月～3月		各事業所 ①今までに献血を実施したことのない企業・団体について、HP等閲覧し、社会貢献活動を積極的に行っている団体を抽出し、その企業・団体に対して積極的に献血の必要性を伝え献血協力をお願いをする。 ②献血実施企業・団体等にお渡しし、関連企業・団体を新たに紹介していただき、献血の必要性を伝え献血協力をお願いをする。 ③3年以上献血協力がない企業(休眠団体)について、再度献血をお願いをする。 ④年1回のみ実施の企業・団体に対して、年複数回実施をお願いをする。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

愛知県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血者を35%まで増加させる。	複数回献血協力者確保事業	継続	初回及び年1回の献血者 複数回献血クラブ未登録献血者	4月～9月 10月～3月		1.複数回献血クラブ登録キャンペーンを実施し、各献血会場において会員登録を強化する。 複数回献血クラブ会員登録数を12,000名増加させる。特に大学・専門学校などの若年層中心の献血会場、イベント会場等複数回献血クラブ広報紙やSMS等を活用して、会員登録強化を図る。 2.初回献血者に対して、依頼ハガキを活用して献血依頼票併せて複数回献血クラブ登録を促す。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
全血献血における400mL献血の比率 90%	400mL献血の推進対策	継続	固定施設における全献血者	4月～3月		1.1箱あたりの確保単位数が低下傾向にあり、400mL献血由来の赤血球製剤の需要が94%あることから、輸血用血液の安定確保と安全性の点から輸血用血液の使用状況を説明し、その確保に努める。具体的にはその必要性についてホームページや随時随所に掲載し、献血推進協議会や献血団体・献血者個々へ説明するとともに400mL献血を推進するキャンペーンを行う。 400mL献血については、固定施設での割合が低いことから数値目標として設定しキャンペーンを行いながら推進していく。なお、移動採血における確保単位数については、新システムの導入により数値目標を変更する場合がある。
移動採血における1箱あたりの確保単位数 95単位	移動採血安定確保対策	継続	移動採血車全献血者	4月～3月		

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

三重県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血者数1,543人 (献血率2.2%)	献血セミナー	継続	高校生・専門学生	7月・9月・10月・11月	6回300人	学校内教室	クイズ形式で楽しめる内容のセミナー
	学生献血	継続	高校生・専門学生	10月	5回100人	学内	授業時間内や学祭での献血実施。高校1校・専門学校4校実施予定
	Roll up your sleeve	継続	高校生・大学生 専門学生	街頭献血実施を中心に 各種献血キャンペーンや学 内献血などの「時期」に合 わせる	15回(他事 業と重複)	学内・ショッピングセンター	シリコンバンドの配布により献血協力への動機づけをおこなう。
	学生献血推進連盟	継続	高校生・大学生 専門学生		12回以上	学内・ショッピングセンター	各種献血キャンペーンに企画協力し学生献血の核となってもらう。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血者数10,080人 (献血率5.6%)	学生献血	継続	大学生・専門学生 教職員	月1回以上	20回700人	学内	授業時間内や学祭での献血実施。大学5校・専門学校4校実施予定
	全国統一キャンペーン	継続	大学生・専門学生	7月・8月・12月・1月・2月	15回800人	ショッピングセンター	月間・クリスマス・はたち等の献血当日の啓発活動。
	Roll up your sleeve	継続	高校生・大学生 専門学生	街頭献血を中心に	15回(他事 業と重複)	学内・ショッピングセンター	シリコンバンドの配布により献血協力への動機づけをおこなう。
その他の目標値 学生ボランティアを350名確保する。	学生献血推進連盟	継続	高校生・大学生 専門学生	各種献血キャンペーンや学 内献血などの「時期」に合 わせる	12回以上	学内・ショッピングセンター	各種献血キャンペーンに企画協力し学生献血の核となってもらう。
	学生ボランティア(ミドナサポーター)育成	継続	高校生・大学生 専門学生	4月～7月	約80校	学内	県行政(保険所)と連携して学校訪問しサポーターの加入を推進するとともに献血の呼びかけをする。

企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
成分献血協力団体を新規10団体を増やす。	献血協力団体増加対策	継続	献血協力団体	協力団体との打合せによる		固定施設3か所	四日市・母体で各3団体、伊勢で5団体を確保する。
新規献血協力団体10団体を増やす。	企業における献血の推進対策	継続	新規事業所	献血実施事業担当者 と事前協議を行い調整する。		献血推進課	新規事業所の開拓・献血実施事業所担当者に系列企業・グループ会社等を紹介していただく。
年間協力回数の増加依頼 (20企業以上の了承を得る)	企業における献血の推進対策	継続	献血協力団体	年間を通じ協力団体ごと に調整する。	50件	献血協力団体	50企業に年間(複数年)協力回数を1回でも増やすことを依頼し、20企業の了承を取り付けたい。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

三重県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	具体的かつ詳細に記載すること	
複数回献血者の目標値 会員数を8,000人とする。	複数回献血キャンペーン	継続	献血者全員	年間を通じて		採血現場でのチラシ等による勧誘	
	はがきによる依頼	継続	献血者全員	5月・9月・12月・1月・3月	10回	所の献血対象者に対してはがきで依頼する。	
	メディアによる協力依頼	継続	視聴者	特にイベント実施月ごとに		スポンサー番組による協力依頼、情報提供	
その他の目標値 3年以上休眠状態の献血協力 団体10団体の復活		継続	企業	担当者との打合せによる		担当者だけでなく、幹部・トップに面会させていただく。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	具体的かつ詳細に記載すること	
20組40名	ブロック血液センター見学ツアー	新規	小学生親子	7月・8月	2回	夏休みの時期に親子で参加してもらい、献血について興味を持ってもらう。	
3校100名	出前授業	継続	小学生・中学生	学校と調整	3回	献血について興味を持ってもらう。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

滋賀県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

※ 献血推進2014を踏まえ、若年層献血セミナーについては継続することとし、計画を策定すること。

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規高校献血を3校以上実施	高校献血	継続	高校生	4月～3月	5	県内高等学校	H23度・・・4校 H24度・・・7校実施予定をH25年度は10校を目標とする。
高校及び大学で献血セミナーを5校以上実施。各会場で30名以上	献血セミナー	継続	高校生	4月～3月	8	県内高等学校	高校では事業の一環としてセミナーを実施する。
			大学生			県内大学	大学では主務会等でセミナーを実施し、学内献血時にパネル 展示や、ダブルスカイの上映を実施する。
夏季・冬季実施の学生キャンペーンに各回、20名のボランティアを要請し、若年層に呼び掛ける。	若年層献血推進	継続	高校生 大学生	7月・8月・12月・1月	4	街頭献血会場	例年実施している、サマー献血・クリスマス献血・はたちの献血キャンペーン時に学生ボランティアを増大し、若年層にPR及び、献血の勧誘を行う。
立命館大学の献血実施時に体育会に毎回20名以上の協力者を依頼する。	若年層献血者確保	新規	立命館大学体育会	年間を通して	12	立命館大学	立命館大学の体育会で献血担当を決定し、献血実施時に各体育部から、毎回20名以上協力してもらう。
学校献血(大学・高校・専門学校)に45台配車、献血者2700人確保	若年層献血者確保	新規	学生	年間を通して	45	各学校	呼び掛け用のTシャツ(200枚)を作成して啓発活動を行う。学生献血キャンペーンを実施する。
移動採血車1稼働平均100単位の採血	若年層献血者確保	継続	学生	12月～1月	随時	街頭献血会場及び 固定施設	クリスマス期間から年末年始にキャンペーンを実施する

ウ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規事業所等5社以上実施	新規献血団体増強	継続	県内企業等	4月～3月	10	滋賀県内	新規献血協力団体を5社以上確保する。
一台当りの採血量を100単位以上確保する。	献血量確保	継続	県内企業等	4月～3月	50	滋賀県内	100単位以内の事業所等の底上げや、1日配車を半日配車に変更し1台当りの確保量を上げる。

エ. 複数回献血協力者の確保対策

滋賀県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
10団体150名の増加	献血団体の年回実施回数の増加依頼	継続	企業・団体等の献血団体	4月～3月	随時	年間1回の実施先に対して年2回の実施を依頼し、10団体平均15名の増加で150名を目標	

オ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
応募者(実協力者)3,000名	メール、はがきによる献血依頼	継続	街頭献血会場等の既協力者	4月～3月	毎月随時	メール、はがきによる献血依頼要請をする。協力者の目標はメール、はがき併せて3,000名以上	
新規登録者200名以上	郵送等による登録者募集	継続	固定施設等の既協力者	4月～3月	毎月随時	DM等により新規登録者を募集する。固定施設への献血依頼に併せて200名以上の新規登録者の募集を行う。	
血小板献血7170名	血小板献血者確保事業	継続	固定施設等の既協力者	4月～3月	毎月随時	固定施設において毎月季節イベントを実施する(12回/年)成分献血ポイントキャンペーンを実施する(3～5月・10月～12月 2回/年)	
母体採血1稼働平均40名	母体採血PR事業	新規	固定施設等の既協力者	2月～3月	随時	母体採血施設のリニューアルオープンプレットを2000部作成母体施設の既献血者及び献血登録者に対し告知する	
移動採血車1稼働平均100単位の採血	街頭献血啓発事業	継続	街頭献血会場等の献血者	年間を通して	随時	年間を通して献血協力の少ない市町及び街頭献血会場に新聞折り込みを実施する。(年間約60会場 55万枚)	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

京都府赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 10代献血者数8,400人 10代献血率5.6% (10代献血者数:平成23年度実績(4,815人)から約1,600人の増加を目指す。)	献血セミナーの推進	新規	小・中・高校生	通年	10回	献血ルーム・支部・高等学校	夏休みに小学生対象のセミナーの実施。中学生、高校生に対し、京都府下の教育委員会を通じての公立、私立高校へ献血セミナーの実施について働き掛けを行う。青少年赤十字加盟校に対し、献血セミナーの実施について働き掛けを行う。献血を実施している大学の付属中学・高校へ、献血セミナーの実施について働き掛けを行う。イベント等で青少年に対し献血の啓発を行う。400mL献血可能年齢である男性17歳の積極的な広報展開(400mL献血基準の周知)
20代の献血者及び献血率の目標値 20代献血者数25,300人 20代献血率9.0% (20代献血者数:平成23年度実績(24,480人)から約850人の増加を目指す。)	3ルーム市バス広告	新規	20代	12月から開始して8カ月間	1回	京都市内	献血者が減少する冬場に、3ルームの場所を車体に掲示したバートラッピングバス(京都市内を循環する市営バスで、市内の大学を中心に走る路線)により、献血の啓発と献血ルームの周知を図る。
	世界献血者デー、高校生キャンペーン、はたちの献血キャンペーンの広告	新規	20代	6月、12月、1月、2月	4回		キャンペーンの実施前に新聞に若年層をターゲットにして広告を掲載し、広く献血の啓発を行う
その他の目標値 献血ワクワク体験参加者30人	献血ワクワク体験	新規	小学生以下の子供と保護者	7月または8月	1回	福知山出張所	献血出前講座(わかりやすいクイズ形式など)、献血バスや献血運動車の見学、献血模擬体験、けんけつちゃんを題材にした献血ポスター(ぬり絵)作製⇒後日、献血バスに掲示のイベントを行い、小学生及び保護者への献血啓発を行う。

その他の目標値 20代の献血率を平成23年度よりも0.2%以上アップし、9.0%とする。 献血ルームの初回者率6.0%(平成23年度累計は4.8%であった。)	献血ルーム四条へようこそキャンペーン	新規	10代、20代を中心とした学生	平成25年11月1日から11月30日	数回	通行量の多い地下鉄四条駅構内及び四条烏丸交差点とルーム前	若い人の通行量の多い地下鉄四条駅構内に冬期献血者確保を訴える臨時掲出シートを掲出し、献血ルームの所在地の周知と献血推進を図る。 期間中に数回、京都府学生献血推進協議会による街頭啓発活動を通行量の多い四条烏丸交差点とルーム前で実施する。また期間中に若い人用の記念品を配布し、より多くの若い人の来所を図る。 このキャンペーンを通して冬期の献血者不足をマスコミ等に取り上げてもらうことにより、若年層の献血者増を図る。
	ネットで広げよう！ 献血仲間！ 〜き♡ず♡な キャンペーン〜	継続(拡大)	10～20代	通年		京都市内の3献血ルーム	若年層献血者確保対策として、若い世代が多く利用するツイッター、ユーチューブ、SNS(※ソーシャルネットワークサービス)等でのキャンペーンPRを実施する。また、いくつかの「ミッション(任務)」を行うことにより、プレゼントのチャンスが増加するというキャンペーンの仕組みにより、若い世代の興味を引き、友人等への献血紹介の動機付けとする。 また、本キャンペーンにより冬期の400mL献血確保対策も併せて行う。 (方法) ①インターネット、Webを使って ①従来のホームページ、フレンズ宛メールに加えてツイッター、ユーチューブ、SNS等でキャンペーンをPRし、同時に「キーワード(含言葉)」を告知する。 ②献血ルーム受付で「キーワード(含言葉)」を言って献血協力されると、記念品を進呈する。 ③献血ルーム受付で「キーワード(含言葉)」を言い、複数人数の献血協力で記念品をダブルプレゼントする。 ②チラシを使って ①期間中の全献血協力者へチラシ配布によりキャンペーンPRを行う。 ②献血者の方から若い世代(10～20代)へチラシをお渡しいただく。 その際、チラシの紹介者欄に献血者の住所・氏名等を記入してもらう。 紹介者欄＝(イコール)プレゼント抽選応募となり、期間中の応募者の中から当選者へ豪華記念品を進呈する。若い世代の知人を紹介すればするほど、当選する確率が上がることとなる。 ③献血者からもらったチラシをご持参の方が献血協力で記念品を進呈する。 ④専続学校等の各種団体にもチラシを配置する。 (3)献血ルームからキャンペーンをPR 当日、その場で当キャンペーンをメール、SNS等でPRしていただいた方へ、記念品を進呈。 〈献血者処遇品〉 300円相当の品(商品未定) 〈広報費〉 ①オリジナルチラシ 60,000枚 ②献血者処遇品(300円相当の品) 3,000個 ③当選者への記念品(4000円相当の品) 100個
	フリーペーパーによる広報推進	継続	10代、20代を中心とした市民	平成25年12月から平成26年3月まで	各月1回	通行量の多い地下鉄四条駅構内及び四条烏丸交差点とルーム前	若い世代に「献血の必要性(献血って何?)」を考えていただく、「なぜ献血に行かなくてはならない?」「献血ルームってどんなところ?」の疑問「対しフリーペーパー(読ませて行動させる)を活用し、献血ルームの周知、献血離れ、献血への認知度、関心度を向上させる。献血への関心をもっといただくため、献血の来所を促すキャンペーン・イベント・記念品を贈ること初回献血者、献血経験はあるが献血ルームの来所は初めての献血者増を図る。

	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業(大学生向け献血PR)	継続	10代・20代の大学生	平成25年11月	5回	教育大学・文教大学・理学院大学・龍谷大学	献血ルーム伏見大手筋近隣の大学の学園祭パンフレットに広告を掲載し、大学生等に献血ルームのPR・新規献血者の募集を行い、献血者の増加を図る。
	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業(若年層向け献血PR)	継続	10代・20代の若年層	平成26年1月	10回	献血ルーム伏見大手筋	地元FM局の番組内でパーソナリティーから聴取者に献血ルームのPR・新規献血者の募集を行い、さらに血液センター職員が番組に出演することで、タイムリーな話題や献血情報を聴取者に提供し、献血協力を促す。
大学・専門学校献血の1稼動あたり400mL献血数50人以上	献血でSOYJOYキャンペーン	継続	学生・専門学校生	4月～3月	約100稼動の移動採血	大学・専門学校	大学献血・専門学校献血の実施前、及び実施日に、本キャンペーンチラシを学内で配布、「献血でSOYJOY進呈」をお知らせし、学内献血の協力を依頼する。
	大学・専門学校対象の通年献血ポスター及びパンフレットの製作	新規	学生・専門学校生	4月～3月	通年掲示	大学・専門学校	献血広報ポスター、リーフレットを製作し、京都センター管内における大学及び専門学校に配布・掲示してもらい学生に献血に関心を持つ機会を増加させ献血者増加につなげる。移動採血の実施時期に関わらず、一年を通して掲示及び配布を各学校へ依頼することで、京都府全体の10～20代前半(特に10代)の若年層献血者の増加を図る。
舞鶴市内での10代、20代の年間総献血者1,500名の確保	ヤング献血in MAIZURU大講演会	新規	10代・20代の若年層	平成25年5月	1回	舞鶴総合文化会館	これからの献血を支える舞鶴市内の中学生・高校生などの若年層を対象に1500人規模の大講演会を行い献血の重要性と安全性を啓発する。この目的に賛同する舞鶴ライオンズクラブ発足20周年記念事業とタイアップし、行政の後援も得て開催する。 ①行政の協力も得て講演会場の確保とその使用料の免除を受ける。行政誌・行政ポスターの紙面も活用する。 ②若者の支持を得ているアイドルグループ又は著名人を招きステージショー・トークショーやクイズ形式で献血の重要性を啓発する。 ③オープニング演奏として海上自衛隊舞鶴音楽隊と西舞鶴高校吹奏楽部ジョイント演奏を計画。 ④当日参加者には記念品(けんけつちゃんシール付USBメモリ)と啓発資料を渡す。 ⑤対象は舞鶴市内の中学・高校・高専の生徒。

イ. 企業等における献血の推進対策

京都府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血協力企業・団体等を増加させる(目標5団体)	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所・団体	新規事業所、新規団体の開拓を行う。
企業団体等における年間複数回の協力依頼(目標3団体)	複数回献血協力企業・団体確保対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所・団体	既協力企業・団体に対して依頼する。
献血協賛企業活動推進事業のロゴマーク配布(目標40団体)	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所・団体	献血協賛企業の募集
継続協力企業・団体に於いての初回献血者の募集(各企業・団体における協力人数の3%)	初回献血者増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所・団体	既協力企業・団体に於いて献血に参加されなかった方に参加協力を働きかける。初回者を増加させることで、企業・団体での献血者増加につなげる。
施設見学参加40名	ブロックセンター見学	新規	長田野工業団地内企業若手(10～20代)社員	上半期	1回	近畿ブロック血液センター	当出張所が立地する長田野工業団地内企業の10、20歳の社員約40名を対象に、近畿ブロック血液センター施設見学を行う。これからの企業献血の中心になってもらう若手社員に献血について知識を深めていただく。
平成24年度実績53名を上回る献血者を確保する。	京都府理容生活衛生同業組合員向け献血PR	継続	京都府理容生活衛生同業組合員	平成25年9月頃	1回	京都府内各献血ルーム	京都府理容生活衛生同業組合の広報誌に広告を掲載し、同組合員等に献血ルームのPR・新規献血者の募集を行い、献血者の増加を図る。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

京都府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血者の割合を献血者全体の35%まで上昇させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	9月と11月	8回	会員の健康増進を図り、献血への意識をさらに高めることを目的に、専門家による健康相談「ヨガ教室」を実施する。
	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	1月	1回	献血と健康管理に対する意識をさらに向上させることを目的に「講演会」を実施する。
	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	毎月1回	12回	輸血用血液の安定確保のため、定期的に協力要請メールを送信する。複数回の意図付に有効活用する。
	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	毎月1回	12回	キャンペーン・健康相談事業など会員に関心を持っていただく情報提供メールを送信する。
複数回献血クラブ新規登録目標数を年間2,000人とする	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ未会員	4月～3月		会員募集用リーフレットを300,000枚作成し、複数回献血クラブ会員増加を図る。特に若年層の大学生・専門学校生を中心に募集活動を強化する。また、年に6回の登録強化週間を設ける。
複数回献血者の目標値 献血ルームにおける400mL献血の複数回協力者の割合を前年度比5%増を目標とする。	「おこしやす献血キャンペーン」 400mL献血キャンペーン	継続	移動採血車及び献血ルーム来所献血者	平成25年4月1日～平成26年3月31日		「おこしやす献血ルーム400mL献血キャンペーンカード」を献血ルーム及び移動採血車の400mL献血者に配付し、次回、献血ルームに来所された400mL献血者に対し、記念品を渡す。 キャンペーン期間中は平成25年4月1日からカードを配付し、記念品交換は平成26年4月30日まで。カードは42,000枚作成し記念品は10,200個を購入する。
その他の目標値 キャンペーンを通じて複数回の献血協力者を増やすことで、年間献血目標の15,000人を達成する。また、「献血ルーム伏見大手筋移転1周年キャンペーン」(平成24年8月24日～31日)の献血者数は449人(目標は450人で設定)であったが、本キャンペーンも24年度と同じ450人を献血者確保目標とする。	献血ルーム伏見大手筋移転2周年キャンペーン	継続	複数回献血者及び初回献血者	平成25年8月24日(土)～平成25年8月31日(土)	1回	献血ルーム伏見大手筋の移転2周年をマスメディア・インターネット等を活用しキャンペーン展開することで、広範囲に献血ルームの周知及び献血思想の普及を図り、若年層献血者・初回献血者の増加を目指す。 また、次年度以降も3周年、4周年記念と継続してキャンペーンを展開することで、継続した献血者増を目指す。 1. 献血ルームでのイベント ①けんけつちゃんの着ぐるみを活用して、献血の呼びかけを実施する。 ②献血者に移転2周年記念品を贈呈する。 2. 移転2周年キャンペーンの告知 ①キャンペーン告知のポスターを作成し、献血ルーム伏見大手筋近隣の学校・事業所等に掲示を依頼する。 ②京都府赤十字血液センターのホームページ等WEBでキャンペーンを告知する。 ③複数回献血クラブ登録会員へメールで告知する。 ④献血ルーム伏見大手筋の地元に着信したFM局を活用し、キャンペーンの告知・献血ルームの周知、献血思想の普及を図る。 ⑤京都府南部市町村に配付されている地域新聞に広告の掲載とキャンペーンの取材依頼を行う。 ⑥その他マスメディアにイベントの取材依頼を行い、記事の掲載を図る。

エ. その他

京都府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者300人確保	地域マダム参加UPキャンペーン	新規	地域における女性会、PTA、保健協議会等会員	4月～3月	通年実施	初回または久しぶりの献血協力を狙い、400mL献血の確保および献血量の拡大を図る。会議開催時に現行の地域チラシ+ノベルティ物品をつけてPRL、献血参加を促す。
献血ルーム四条の平成25年度目標の献血者数22,053人を達成する。	四条通り地下通路のPR用掲出看板設置	新規	全世代献血者	通年	通年実施	平成23年11月25日に移転した献血ルーム四条の最寄駅である地下鉄四条駅と阪急烏丸駅の地下通路に献血ルームのPR掲出物を設置して、献血ルームの所在地の周知を図り、献血希望者を献血ルームに誘導する。
	はがきによる400mL献血依頼(3ルーム合同事業)	継続	全世代献血者	通年		①献血ルーム合同400mL依頼はがきによる依頼を行う。6か月前、10か月前の400mL献血者へ献血の依頼をおこなう。 ②誕生日月の献血者に、はがきによる依頼を行う。前年度献血者に、はがきを送付し400mL献血の依頼を行う。毎月800通送付し年間10,000通送付予定。依頼期間は誕生日月の1か月間とする。来所者には記念品(バスティプレゼント)を渡す。
献血ルーム伏見大手筋の平成25年度目標の献血者数15,000人を達成する。	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業	継続	大手筋商店街来訪者	通年	数回/日×365日	大手筋商店街のアーケード放送を活用し、商店街の来訪者に献血ルーム伏見大手筋のPR及び献血協力の動機付けを行い、献血者の増加を図る。
献血ルーム伏見大手筋の平成25年度目標の献血者数15,000人を達成する。	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業(初回献血者向け)	継続	ケーブルテレビ視聴者	通年	数回/日×365日	有線テレビ放送を活用し、献血ルーム伏見大手筋の内部をより詳細にPRすることで、初回献血者の献血に対する不安等を緩和し、献血への参加意識を高める。
対象取組の24年度実績370人(予定数を含む)の維持	コミュニティFMのスポット広告	継続	各局聴取エリアの地域住民	5、7、8、12、1、2月	6回	管内のコミュニティFM1局、FMたんば、FMたんどで、イベント献血・街頭献血実施時に合わせスポットCMを流し、献血者の確保につなげる
対象取組の24年度実績3,400人(予定数を含む)の維持	地域新聞への広告	継続	各紙発行地域の地域住民	毎月	30回	管内の地域新聞(丹波日日新聞、あやべ市民新聞、舞鶴市民新聞)に、イベント献血・街頭献血時に合わせて広告を掲載し、献血者の確保につなげる
年間採血目標(17,087人)の達成	地方紙への広告	継続	京都新聞(丹波・中丹・丹波版)購読者	4月	1回	当出張所の管内と重なる京都新聞の丹波版・中丹版・丹波版に広告を掲載する。前年度の実績とお礼、継続した献血のお願いを行う。
対象取組の24年度実績920人(予定数を含む)の維持	新聞折込チラシ	継続	京丹後市民	毎月	12回	毎月実施しているショッピングセンターでの献血に際し、地域に約10,000枚折込チラシを実施し、献血者の確保につなげる。
H24年の回収率11.8%を上回る	RE:献血キャンペーン	継続	管内献血者	H25. 7月～H26.3月	1回	献血者に記念品引換券を渡し(H25.7月～12月)、冬場の再来をお願いする。期間中(H25.10月～H26.3月)に来所いただいた方に記念品を渡す。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

大阪府赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.2%	学推サマー献血キャンペーン	新規	若年層	8月	5会場	街頭及び献血ルーム	学生が主体になり献血キャンペーンを行うことで、若年層の共感を博す。 (1)学生自らがポスターやチラシなどの広報物品を作成。 (2)上記広報物品を使用し、街頭献血を主体に呼びかけ活動。 (3)統一したTシャツを着用しての呼びかけにより、一体感とPR効果を高める。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.2%	ラクロス献血キャンペーン	継続	大学生	3月(2日間)	8会場	街頭及び献血ルーム	年度末に日本ラクロス協会のメンバーが協力する献血に、記念品を作成し、献血協力者に配布するとともに、献血当日は街頭献血会場で呼びかけ活動も展開する。 この献血運動を今後とも継続し盛り上げていくために、ラクロス協会に因んだ記念品を作成し、献血者に進呈することにより、年度末における献血者の確保を図る。
その他の目標値 参加者全員の献血への意識向上を目指し、街頭での呼びかけボランティア時には、各会場10名の献血者増を目標とする。	サマー献血スクール	継続	高校生	8月	1回	・大阪センター内 ・街頭及び献血ルーム	(1)高校生を対象に献血セミナーを開催し、献血に対する理解を深めてもらう。 (2)実際に街頭等にて献血呼びかけのボランティア体験をしてもらうことにより、血液を確保することの重要性を理解してもらう。 (3)統一したTシャツを着用しての呼びかけにより、一体感とPR効果を高める。

イ. 企業等における献血の推進対策

大阪府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
前年度より5～10%の増加	職域献血推進キャンペーン	継続	・新規団体 ・事業所における400mL献血者	12月～3月	100会場	各事業所	冬季にビル献血や職域献血会場で、告知ポスターや告知チラシ、社内報、再来依頼ハガキ等で推進対策の事前PRをすることにより、献血参加を促し、献血協力者には記念品を進呈する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 400mL献血者の1人当たりの年間回数を1.38回(H23年度1.33回)に、成分献血者の年間回数を3.34回(H23年度3.29回)に、それぞれ引き上げる。	大阪府内共通ポイント制(成分献血・400mL献血)	継続	成分献血者 400mL献血者	通年	大阪府内全献血会場	400mL献血者と成分献血者にポイントカード(400mL・成分共有、有効期限400mL1年間、成分2年間)を配布し、記念品進呈回数時に記念品を進呈することにより、複数回献血者の増加を図り、輸血用血液の安定的な確保を図る。 成分献血者には、3回、10回、15回、20回の協力時に記念品を進呈することにより、複数回献血者の増加を図り、成分献血の安定的な確保を図る。 400mL献血者には、2回目の協力時に記念品を進呈し複数回献血者の増加を図る。	
その他の目標値 30～35%の応諾率	400mL献血プラスワンキャンペーン	継続	固定施設での400mL献血者	9月～3月	12施設	固定施設において、400mL献血協力者にプラスワンカードを20,000枚配布し、次回の400mL献血を依頼し応諾者には記念品を進呈する。	

エ. その他

大阪府赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
前年度より5～10%の増加	地域献血推進キャンペーン	新規	400mL献血者	11月～4月	100会場	地域献血において400mL献血者の底上げを図るためキャンペーンを実施し、400mL献血者に記念品を進呈する。
年末年始の計画比100%	年末年始献血者確保対策	継続	予約対象者等	年末年始	10施設	年末年始の血液確保について、各固定採血施設が予約により採血計画を確実に達成するために、予約で協力いただいた献血者に感謝の記念品を進呈し、採血計画の達成を図るとともに、毎年の予約をスムーズに行う。
1会場50人	呼びかけ強化(キャラバン隊)	継続	400mL献血者	通年	80会場	街頭等で呼びかけキャラバン隊を結成し、呼びかけを強化し400mL献血確保を図る。
採血計画数100%の確保	ラジオ放送を使用としての献血啓発	継続	一般リスナー	通年	適宜	FM、コミュニティFM、AMなどの放送局を活用し、身近に感じてもらえるような放送局を中心とした献血啓発を行うことにより献血者の確保を図る。
冬季の計画数100%確保	献血者減少期(10月～3月)における献血者確保のための広報	継続	献血対象者	10月～3月	適宜	①ネット広告 性別、年代別、居住地などターゲットをしぼり訴求する ②ラジオスポット放送(ミニFM含む) 人気番組内で生パブの放送をする。ラジオCMを作成し放送する。 ③街頭ビジョン作製・放映 献血啓発・献血者確保用の映像CMを作成し、主要街頭に設置されている街頭ビジョンで放映。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

兵庫県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 13,847人(献血率6.2%)	若年層献血セミナー	継続	小・中・高校生 他	通年実施	30回	各学校及び血液センター	行政と連携のうえ、血液の知識、献血の重要性について献血セミナーを実施し、高校生をはじめ若年層に対する献血意思の普及啓発に積極的に取り組み、将来の安定的な献血者確保の基盤形成に努める。
	こども見学会	継続	小学生	7月～8月末	3回以上	血液センター	親子でプレゼンテーション形式によりクイズ等を交えながら血液と献血について学習してもらい、献血に触れる機会を増やす。
20代の献血者及び献血率の目標値 46,658人(献血率8.2%)	はたちの献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若年層	1月～2月	1回	イベント会場	地元ラジオ局等の協力を得て、成人式を迎えるはたちの若者を中心に献血の呼びかけを集中的に行う。また、兵庫県学生献血協議会主催の献血受入れも実施し、若年層への積極的な献血参加の促進、将来の献血者となる児童等に献血を身近に感じてもらうようキャンペーンを実施する。
	献血協力組織育成事業(兵庫県学生献血推進協議会活動助成)	継続	大学生を中心とした若年層	通年実施	多数回	各学校及び血液センター	兵庫県学生推進協議会が主体となって、大学生をはじめ若年層に対する献血意思の普及啓発に積極的に取り組むことにより将来の安定的な献血者確保の基盤形成に努める。
	看護の日献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若年層	5月	1回	献血ルーム	5月12日の看護の日になちなみ、毎年5月、県内の献血ルームにおいて看護学生が自作の広報資料等で若年層を中心に献血の呼びかけを行う。
その他の目標値 10代～20代の献血構成比を全献血者の26%とする	複数回献血協力者確保対策	新規	複数回献血クラブ会員	通年実施	毎月	県内各献血場所	10～20代の複数回献血クラブ会員を中心に毎月献血依頼メールを配信し、若年層の献血構成比向上を図る。
	ヴィッセル神戸とのコラボレーション	継続	若年層	10月・1月	数回	スタジアム・イベント会場	ヴィッセル神戸(選手)の協力を得て、若年層への積極的な献血参加の促進と将来の献血者となる児童等に献血を身近に感じてもらうことを目的にスタジアム内外での啓発や献血キャンペーン等を実施する。
	INAC神戸とのコラボレーション	新規	若年層	ホームゲーム開催月	数回	スタジアム・イベント会場	INAC神戸(選手)の協力を得て、若年層への積極的な献血参加の促進と将来の献血者となる児童等に献血を身近に感じてもらうことを目的にスタジアム内外での啓発や献血キャンペーン等を実施する。
	もっと知って赤十字と献血	新規	若年層	5月	2回以上	県内赤十字施設等	県内の赤十字施設と連携のうえ、献血の重要性と赤十字活動を広く県民に周知し、若年層を中心に理解者を増やす。

その他の目標値 10代～20代の献血構成比を 全献血者の26%とする	愛の血液助け合い	継続	若年層	7月	数回	スタジアム・イベント会場	夏の血液助け合い運動月間である7月において、若年層に人気のあるサッカークラブ(選手)等による若年層への積極的な献血参加の呼びかけ及び将来の献血者となる児童等への啓発活動を実施する。
	新聞広告	継続	若年層	通年実施	毎月	県内全域	新聞広告の活用等により効果的な画像による広報等を行い、若年層の献血受入を積極的に行う。
	大型ビジョンによる 広告	継続	若年層	通年実施	毎月	献血ルーム付近の大型ビジョン他	献血ルーム周辺に設置されている大型ビジョンの活用等により、効果的な映像を配信し、若年層の献血受入を積極的に行う。
	広報物(冊子・情報誌)の作製	継続	若年層	通年実施	毎月	各施設	若年層をターゲットとした広報物を作製し献血意思の普及を図る。
	学生献血キャンペーン	継続	高校、大学生他	通年実施	110回	高校、大学校等、県内の 学内献血会場	献血セミナーの実施と併せて、若者の献血に対する負のイメージを軽減できるような、また若者が知りたい情報の提供、献血に親しみを持ってもらえるよう独自の記念品等を作製し、高校献血の拡充と大学等における献血参加者の増を図る。
	ひまわり献血・クリスマス献血キャンペーン(生徒・学生拡大キャンペーン)	継続	学生および来店者	8月・12月	2回	姫路市内店舗	姫路赤十字看護専門学校及びLCCの共催により、8月(ひまわり献血キャンペーン)、12月(クリスマス献血キャンペーン)に着ぐるみ、風船等を配布し来店者への献血を呼びかけを行う。本キャンペーンについては、夏季、冬季の血液不足を補うこと及び若年層に献血の理解と協力を訴えとともに、学生ボランティアの育成を主たる目的とする。
	10・20代献血拡大 キャンペーン(生徒・学生拡大キャンペーン)	継続	若年層(高校生・大学生・その他学生等)	通年実施	毎日	○10代・20代献血拡大 全献血ルーム ○生徒・学生拡大 塚口ルーム・新長田ルーム	○10代・20代の献血(若年層献血者確保対策事業)友達紹介カードを作成、配付し献血者の知り合いの方の協力を得る。紹介者及び協力者に記念品を提供する。 ○生徒・学生拡大対象者にけんけつちゃん関連グッズを進呈し、本人のバート効果とともに校内での口コミ効果を狙う。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
100団体	献血協賛企業活動 推進事業	継続	企業、団体	通年実施	150回	献血サポーターマーク(ロゴマーク)を協力団体、企業に対して配付することにより、より一層献血に対する理解を深めてもらい、継続的な協力はもとより不足時等における積極的な協力が得られるよう努める。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

兵庫県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血クラブ会員新規登録者年間4,500人	複数回献血協力者 確保対策	継続	未登録者	通年実施	多数回	大学や献血ルームにおいて、推進担当者が積極的に勧誘する。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
12月～3月の採血計画達成(51,173人)	冬季の血液確保 キャンペーン	新規	主に全血	12月～3月	1回	最も献血者確保が厳しい時期の対策として、新聞等の広報の実施と献血キャンペーンを実施し協力を促す。
12月～3月の採血計画達成(69,821人)	冬季用啓発資料の 作製	継続	全献血者	12月～3月	多数回	最も献血者確保が厳しい時期の対策として、記念品を作製し献血協力を促す。
献血ルームの平成25年度採血 計画数達成(121,409人)	献血ポイントキャン ペーン	継続	400・成分献血者	通年実施	1回	献血種別ごとにポイントを設け一定のポイントが貯まれば記念品を進呈する。 (献血ポイントを作成し押印より確認する) ポイント内容:400mL=男性3ポイント、女性4ポイント 血小板=2ポイント 血漿=1ポイント 平日協力=1ポイント
献血ルームの平成25年度採血 計画数達成(3月:10,605人)	ひなまつり献血キャン ペーン	継続	全献血者	3月中の1週間程度	1回	県下全献血ルームにて、ひなまつりにちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。ひなまつりにちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
献血ルームの平成25年度採血 計画数達成(5月:10,342人)	端午の節句献血 キャンペーン	継続	全献血者	5月中の1週間程度	1回	県下全献血ルームにて、端午の節句にちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。端午の節句にちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
献血ルームの平成25年度採血 計画数達成(7月:10,489人)	七夕献血キャン ペーン	継続	全献血者	7月中の1週間程度	1回	県下全献血ルームにて、七夕にちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。七夕にちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。

献血ルームの平成25年度採血計画数達成(10月:10,800人)	ハロウィン献血キャンペーン	継続	全献血者	10月中の1週間程度	1回	県下全献血ルームにて、ハロウィンにちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。ハロウィンにちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
献血ルームの平成25年度採血計画数達成(12月:10,810人)	クリスマス献血キャンペーン	継続	全献血者	12月	1回	県下全献血ルームにて、クリスマスにちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。クリスマスにちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
献血ルームの平成25年度採血計画数達成(2月:10,105人)	バレンタイン献血キャンペーン	継続	全献血者	2月	1回	県下全献血ルームにて、バレンタインにちなんだ装飾をし、来所いただきやすい楽しい雰囲気づくりをする。期間中の献血者に対して記念品の提供。ホームページ、ポスター等で広報し、新規献血者を獲得する。バレンタインにちなんだメッセージカードを作成、配付し次回献血に繋げる。
三宮出張所の平成25年度採血計画数達成(女性:13,592人)	ネイルケア	継続	献血者中の希望者(女性)	通年実施	月4～6回程度の実施	ヒューマンアカデミー神戸校の学生ボランティアによるネイルケアの施術サービス。ホームページでの紹介及びイベント予定表を作成、配付し事前周知を行っている。
三宮出張所の平成25年度採血計画数達成(年間:34,549人)	アロマリンバマツサージ	継続	献血者中の希望者	通年実施	月2回程度の実施	ボランティアの方によるアロマリンバマツサージの施術サービス。ホームページでの紹介及びイベント予定表を作成、配付し事前周知をおこなっている。
三宮出張所の平成25年度採血計画数達成(年間:34,549人)	盆点前	継続	献血者中の希望者	通年実施	月2回の度実施	御エム・オー・エー美術・文化財団の方による、お抹茶、お茶菓子のサービス。(1日30人限定)
実施時期における採血計画達成(期間中:8,789人)	けんけつちゃん誕生日	新規	全献血者	10月22日前後1週間	1	けんけつちゃんの誕生日に合わせ大々的広報を展開し、けんけつちゃんの間知とともに献血協力に繋げる。
月・火・水の血小板指示数確保(月火水平均300人)	平日(月・火・水)血小板キャンペーン	新規	平日(月・火・水)の血小板献血者	通年	毎週月・火・水	血小板の採血指示数が多い平日の月・火・水に限定し、献血いただいた方に感謝の気持ちとして記念品を進呈し次回協力にも繋げる。ホームページ及びチラシ等を作成し広く周知することで血小板献血者を獲得する。
三宮センター街出張所(午前中)平日20名、土日祝30名確保	ハッピータイムキャンペーン	継続	三宮センター街出張所の献血者	通年	毎日	献血協力者の少ない午前中の献血者及び午前中のリピートドナーを確保するため、平日先着20名、土・日・祝日30名にミニクロワッサンを進呈する。
三宮センター街出張所平日の採血計画達成(44人/日)	平日献血キャンペーン	継続	三宮センター街出張所の献血者	通年(平日)	毎平日	平日の献血協力者を増やし計画数を達成するため、協力者にレトルトカレー等を進呈する。
三宮センター街出張所における下半期採血計画達成(下半期:8,177人)	400mL献血キャンペーン(下半期)	継続	三宮センター街出張所の献血者	平成25年10月～平成26年3	期間中	下半期の血液確保対策として、ホームページや依頼はがきなどにより当該キャンペーンを事前周知し、献血協力者に対して記念品を進呈する。

新長田出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:9,042人)	鉄人ルーム献血感謝の日キャンペーン	継続	新長田出張所の全献血者	毎月28日	12回	抽選権応募方式により応募を受け付け、「鉄人28号」にちなんで毎月28日に抽選を行い当選者に記念品を贈呈し感謝の意を表す。
新長田出張所における平成25年度下半期採血目標達成(下半期:4,569人)	鉄人献血ルーム献血強化キャンペーン	継続	新長田出張所の全献血者	平成25年10月～平成26年3	期間中	下半期の血液確保対策として、ホームページや依頼はがきなどにより当該キャンペーンを事前周知し、献血協力者に対して記念品を進呈する。
新長田出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:9,042人)	紹介カード及びPTA会員ならびにスポーツクラブ会員証提示	新規	新長田出張所の紹介カード持参者及びPTA会員ならびにスポーツクラブ会員証持参者	通年	毎日	紹介カード及び献血協力団体であるPTAの会員ならびにスポーツクラブの会員証を持参した献血者に対して記念品を進呈し感謝の意を伝える。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:17,649人)	飾り付け大作戦	継続	尼崎出張所の献血者	毎月	12回	毎月毎に季節感あふれる飾り付けをルーム内外に施し、リピーターの多い塚口ルームの献血者を楽しんでいただく。それにより毎月来ていただけるよう誘導していく。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:17,649人)	平日献血拡大	継続	尼崎出張所の献血者	通年(平日)	毎平日	平日献血者に「けんけつちゃん瓦せんべい」を進呈し、平日の安定確保を図る。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:17,649人)	PTA献血	継続	尼崎出張所のPTA関係献血者	通年	都度	PTA主催献血に際し、記念品を進呈することとし、事前PR、口コミ効果等に活用していただく。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(期間中:335人)	サマー献血	継続	尼崎出張所の献血者	8月(1週間)	1回(7日間)	ルームの入居するさんさんタウンの年間での一大イベントである夏祭り期間に合わせ記念品を提供し地域全体の盛り上げ効果を狙う。また、夏祭り協賛事業としてうちわ製作費を計上する。
尼崎出張所における平成25年度月別の採血計画達成(年間:17,649人)	けんけつちゃん周知	新規	尼崎出張所の献血者	通年	毎日	ルーム入口に「けんけつちゃん」のエアディスプレイを設置し、献血者が立ち寄りやすい環境を整備する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

奈良県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

※ 献血推進2014を踏まえ、若年層献血セミナーについては継続することとし、計画を策定すること。

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
目標数 10代 1,500名 20代 2,000名	若年層確保イベント	新規	10代・20代全般	7月、8月・12月、1月・3月 (長期休み時期)	3回	・街頭献血 ・街頭イベント会場	男性向:アニメポスター(初音ミク等)女性向:スイーツの記念品を軸にしたイベントを実施し、イベント時の採血増加を図る。(1日100名の目標)また、イベント時に引換券を配布し、その後の献血時に記念品との引換(同等品)を実施する。(目標1,000人)

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回実施企業20社	企業複数回献血依頼	新規	単数回実施企業	通年	2	各企業	現在、年に1回のみの実施企業を年に複数回実施していただけるように依頼する。
企業紹介依頼10社	企業紹介依頼	新規	各関連企業	通年	1	各企業	現在、献血を実施している企業より、関連企業の紹介をしていただき、新規企業の獲得を目指す。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
新規登録者年間1,000名	会員向けイベント	継続	複数回会員登録者	通年	60回	会員の方向けにイベント(マッサージ、カラーセラピー等)を実施し、未登録の方も当日入会すれば参加できると説明し、勧誘をする。	
目標採血数 5,000名						この計画での採血目標数を5,000名に設定する。	
新規登録者年間500名	パンフレットの配布	継続	未登録者	通年	-	パンフレットを作成し、献血者の方に配る。	
成分献血(血小板)1日3名増	献血可能日当日献血	新規	献血経験者	通年	-	次回献血可能日の当日に献血をしていただいた方に記念品を進呈する。厳密に当日のみとするか、数日以内とするかは要検討。採血種類を400mLと血小板に限定する。	

エ. その他

奈良県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
母体成分 7,000名	成分・全血ポイントキャンペーン	継続	成分・400mL献血者	H25.7.1～H26.1.31	1回	成分・400mL献血1回につきポイントを進呈し、ポイントが貯まるごとにプレゼントを進呈する。	
各イベント毎 1日50名	季節のイベント	継続	母体献血者	通年	8～10回	ハロウィン、クリスマス、バレンタイン、ひな祭り等の際にお菓子のプレゼントや、くじ引きイベントを実施する。	
母体400mL 10%増(10%=180名)	友達紹介キャンペーン	新規	未献血者	通年	1回	母体で400mL献血をしていただいた方に友達紹介チケットを渡し、次回献血未経験の方と一緒に献血に来ていただく。来ていただいた方にプレゼントを進呈する。	
年間6,000枚 応募率10%	献血サポーターキャンペーン	新規	固定施設での400mL献血者	通年	1回	固定施設で400mL献血協力者に専用はがきを渡し、自分への献血メッセージを記入していただく。献血期間が空いた時や血液不足時期にセンターからそのはがきを郵送する。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

和歌山県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2,350人(6.4%)	高校生献血記念品	継続	献血者	通年	30	各高等学校	高校生献血実施に献血に協力いただいた高校生に対し、参加記念品として文房具などのノベルティグッズを進呈。
	専修学校生・大学生献血記念品	新規	献血者	通年	25	各学校	若者が貰って喜ぶ記念品を用意し、献血への参加を促す。 (20代献血者確保も兼ねる)
	高校生献血セミナー	継続	高校生	通年	5	各学校	各学校へ出向きセミナーを実施し、献血への関心を持ってもらう。 セミナー参加者には参加記念品(ノベルティグッズ)を進呈。
	大学生(専修学生)献血セミナー	新規	大学生及び専修学生	通年	3	各学校	各学校へ出向きセミナーを実施し、献血への関心を持ってもらう。 会場には和歌山県の献血の状況を知っていただくため、平成23年度の各実績をパネルにして展示。 セミナー参加者には参加記念品(ノベルティグッズ)を進呈。 (20代献血者確保も兼ねる)
	和歌山県学生献血推進協議会献血啓発キャンペーン	継続	高校生及び大学生等	通年	14	和歌山県内全域	和歌山県内各献血会場において、若者に献血に応じていただけるよう、学推メンバーが、その時期に応じた呼びかけ・接遇等に自分達でアイデアを出し、献血啓発イベントを開催する。 また、学推限定の紹介カード等を用意して、メンバーが各学校の友達等に配布し、献血協力を訴える。 紹介カード等は学推キャンペーン時に限定し、紹介カードを持参の方にオリジナル記念品を進呈する。
20代の献血者及び献血率の目標値 7,500人(8.8%)	はたちの献血ラジオキャンペーン	継続	ラジオ聴視者	1月・2月	1	和歌山県内全域	冬季の献血者確保対策の一つとして、はたちの若者を中心とした若年層へ、献血への理解と協力を訴えるCMスポーツ放送を行う。 また、地元ラジオ局で特別番組を制作し、輸血を受けた人の声などを流し、献血への協力へ繋げる。
	和歌山県学生献血推進協議会献血啓発キャンペーン	継続	高校生及び大学生等	通年	14	和歌山県内全域	和歌山県内各献血会場において、若者に献血に応じていただけるよう、学推メンバーが、その時期に応じた呼びかけ・接遇等に自分達でアイデアを出し、献血啓発イベントを開催する。 また、学推限定の紹介カード等を用意して、メンバーが各学校の友達等に配布し、献血協力を訴える。 紹介カード等は学推キャンペーン時に限定し、紹介カードを持参の方にオリジナル記念品を進呈する。

イ. 企業等における献血の推進対策

和歌山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーター20社確保	渉外用ノベルティグッズ作製	新規	企業・団体担当者	通年	600	各企業及び団体	渉外活動時に各担当者へ配布。 複数回献血に理解・協力を訴え、献血サポーターへの入会を促す。 また、ノベルティグッズを配布することにより日頃より献血に関心を持っていただく。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 複数回献血者を平成23年度実績より2,000人増。	「献血+ポッキーキャンペーン」	継続	献血者	3月	1	「あと1回・あと1人の献血で助かるいのち」と題し、3月の1ヶ月間に移動採血にて献血への協力を頂い方に対し、グリコチョコレートポッキー(大入り袋)をプレゼントする。	
	「献血でエッ!グー」キャンペーン	継続	献血者	12月・1月	20	街頭献血での献血処遇品をしてたまご10個入り1パックを進呈	
	事前依頼ハガキ応募者の促進	継続	献血者	通年	1	事前依頼ハガキの応募者に対して記念品オリジナルハンドソープを用意し、複数回献血者増に繋げる。	
	年間複数回献血者の促進	継続	献血者	通年	1	1年間に複数回の献血者に対して記念品オリジナル歯磨き粉を用意し、年間複数回献血者を促す。	
その他の目標値 複数回献血クラブメール会員600人増	メール会員登録会イベント	新規	献血者	通年	12	月1回の学推主催献血啓発キャンペーン時の献血者に対し、メール会員への誘発を行う。 また、入会者には記念品を進呈。	
	クラブ募集用パンフレット	継続	献血者	通年	1	各献血会場にて献血者に対し、複数回献血クラブ募集用に配布。	

エ. その他

和歌山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加児童40人以上	夏休み献血ふれあい体験学習	継続	小学生(保護者同伴)	8月	1	小学生と保護者を対象に、近畿ブロック血液センターと血液管理センターの施設見学と、移動のバス車中において献血推進DVDを視聴し、おもしろ献血クイズ等を交えながら学んで頂く。
参加児童20人以上	親子で献血ボランティア	新規	小学生(保護者同伴)	11月	1	小学生とその保護者を対象に、献血セミナーを実施後、献血会場にて小学生には献血啓発を行ってもらい、保護者には献血に協力いただく。後日、献血していただいた血液の検査・製造過程(ブロックセンター)を保護者同伴で見学を行う。
中学校10校(生徒300人)	フレッシュ献血セミナー	新規	中学生	通年	10	各中学校へ出向き生徒を対象に「フレッシュ献血セミナー」と称し、セミナーを実施する。今後、献血可能年齢に達したときの献血への動機付けや、きっかけを与える。
参加学生100名以上	学推研修会	継続	専修学校及び大学生	12月	1	献血に関連のある講師を招き講演会を実施。また、講師とボランティア学生のボランティアミーティングなども併せて行い、今後の献血啓発活動のスキルアップに繋げる。その他にも献血のできる健康な体作りなどの講演も併せて実施。
参加件数100件	あなたのブログが命を救う	継続	献血者	通年	1	「あなたのブログが命を救う」と称し、地域密着型情報サイトを活用し、情報サイト会員に献血バス、献血ルームにて献血にご協力いただいた写真などを載せ、献血推進の内容を自身のブログで掲載していただく。掲載者には記念品(ノベルティグッズ)を進呈。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

鳥取県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 県下高等学校32校の1/3(10校)を目標に献血の推進を図る。	高等学校への献血セミナー	継続	高校生	5月～2月	10回	高等学校	高校2・3年生を対象に資料を配布し、血液の必要性を説明し推進を図る。(参加者:1校30名を予定、10校延べ300名を予定)
県下高等学校32校の1/3(10校)に参加いただくことを目標とする。	10代献血者確保	新規	高校生	5月～2月	随時	固定施設 街頭献血会場	高等学校等に街頭献血日程等を掲載したリーフレットを配布し、固定施設や街頭献血会場で献血に協力いただく。
10代の献血率を6%とする。	若年者セミナー	継続	高校生	7月～8月	3回	県内のショッピングセンター	高校生を対象に血液の必要性の学習を行うとともに献血呼びかけ体験を通じて献血意識の向上を図る。(参加者:1回3～5校30名を予定、3回延べ90名を予定)
20代の献血者及び献血率の目標値 20代の献血率を9%とする。	献血者紹介	新規	大学生	5月～2月	8回	大学 専門学校 等	大学献血会場で献血者紹介キャンペーンを実施する。具体的な内容としては、献血者の方に献血未経験者を誘ってお願いいただく。献血経験がある人からない人への拡大及び献血紹介者の複数回献血への誘導を行う。
	献血協力団体の育成	継続	大学生	4月～12月	2回	大学	資料を配布し、血液の現状や必要性を説明し、夏季・冬期の献血者不足時に効果的な推進を図る。
その他の目標値 300人の参加が得られることを目標とする。	青少年等献血ふれあい事業(献血セミナー)	継続	小学生 中学生	7月～8月	10回	血液センター 県内会議室	県内小学校高学年や中学生を対象にスライドを活用した学習をはじめ、血液センターの見学や移動採血車の見学を取り入れ実施する。(土日を含め5日間、延べ10回開催:対象者300人)

イ. 企業等における献血の推進対策

鳥取県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
企業・団体が行う献血活動の普及・拡大を図るため、100社を目標にロゴマークを配布する。	献血協賛企業活動推進	継続	企業・団体	4月～3月	500回	県内の企業・団体	献血広報資料に献血サポーター事業所名や後援している内容を掲載し、県内500事業所に広報資料を配布し、登録を推進する。
献血推進団体主催の協力実績が前年の回数を上回るよう推進を図る。(16回以上)	献血協力団体の育成	継続	大学生 ライオンズクラブ	4月～12月	17回	大学 ライオンズクラブ事務局	資料を配布し、血液の現状や必要性を説明し、夏季・冬の献血者不足時に効果的な採血となるよう推進を図る。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 480名以上の複数回献血協力者を得ることを目標とする。	複数回献血協力者確保	継続	複数回献血クラブに登録されていない献血協力者	4月～3月	24回	複数回献血クラブに登録されていない方2,400名にダイレクトメールで要請を行ない、応募率20%以上(480名以上)の協力者を得る。 1回100名を対象に年24回ダイレクトメール要請を行う。	
新規登録者を700人確保する。	複数回献血協力者確保	継続	献血協力者	4月～3月	773回	全献血会場(776稼働)で職員や献血推進サークル部員を配置し、紹介用リーフレットを活用して推進を図る。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
各種キャンペーンを実施し、3,250人の献血協力者を確保する。	献血者確保対策(各種キャンペーン)	継続	献血協力者	6月～2月	9回	広く県民への献血の普及啓発を図るため、報道機関を活用し各種キャンペーンを実施する。 ・世界献血者デーキャンペーン ・愛の血液助け合い運動月間キャンペーン ・はたちの献血キャンペーン ・サマー献血キャンペーン ・年末年始キャンペーン ・クリスマス献血キャンペーン ・バレンタインキャンペーン ・若年層確保キャンペーン ・献血者紹介キャンペーン	
午前中の血小板成分献血者4,500人を確保する。	献血者確保対策(固定施設イベント)	継続	献血協力者	4月～3月	471回	母体開所250日、ルーム開所216日(計466日)で午前中の血小板成分献血者を確保し、意識の向上を図るため、午前中の協力者に記念品を贈呈する。 (4,500人を対象)	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

鳥取県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血者数 1032人 献血率 4.0%	若年層献血者確保キャンペーン	継続	10代の若年層	通年	連続	各献血会場	前年度のキャンペーン(期間中、全献血会場で、10代・20代の献血協力者に記念品を贈呈する。献血された方に、「若年層献血推進キャンペーン」紹介カードを渡し、カードを持って来られた方には本人用と紹介者用に記念品を2個贈呈する)を検証し、新たな企画を加える等により充実させ継続する。
	高校・高専献血セミナー	継続	高校生	通年	7回	各高校	高校及び高校JRC研修会等に出向き、若年層献血率アップの必要性と献血の流れ・注意事項など正しい知識の普及啓発を図る。
	高校献血実施	継続	高校生	通年	7回	各高校	セミナー等で正しい知識を持ってもらった上で、高校の文化祭等に配慮して高校生の献血を受け入れる。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血者数 4959人 献血率 8.7%	若年層献血者確保キャンペーン	継続	20代の若年層	通年	連続	各献血会場	前年度のキャンペーン(期間中、全献血会場で、10代・20代の献血協力者に記念品を贈呈する。献血された方に、「若年層献血推進キャンペーン」紹介カードを渡し、カードを持って来られた方には本人用と紹介者用に記念品を2個贈呈する)を検証し、新たな企画を加える等により充実させ継続する。
	学生献血推進ボランティア組織強化	継続	大学・短大	通年	2回	大学・短大	学生献血推進ボランティア組織加盟校を1校増加させ、学生献血推進ボランティア研修会を2回実施する。
	若年層向け広報展開	新規(継続)	若年層	通年	随時		大学祭等のパンフレット、タウン情報誌に若年層向けの献血啓発広告を掲載する。また、TV・ラジオで本部キャンペーンCMを掲出する。フェイスブック、ツイッターによる若年層向け広報を行う。
	大学・専門学校献血セミナー	継続	若年層	通年	随時	大学・専門学校	大学、専門学校の献血実施時に合わせ、献血啓発ビデオの上映等により献血セミナーを実施する。

イ. 企業等における献血の推進対策

島根県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーター企業(団体)を5社以上増加する。	献血協賛企業活動推進事業	継続	献血協賛企業(団体)	通年	随時	各企業(団体)	献血協賛企業に献血サポーターとして登録いただき、一層の献血推進活動の促進を図る。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 新規入会者 500名	複数回献血クラブ登録強化	継続	未入会の献血協力者	通年	随時	複数回献血クラブ入会募集パンフレットを作成し、固定施設(母体、ふれあい)や移動採血(大学・高専・街頭献血等)で随時案内を行い入会促進を図る。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
参加者 180名	小学生親子血液センター見学・体験教室	継続	小学校5・6年生	8月	6回	小学生を対象に親子で献血や血液についての学習や採血・供給の仕事を見学し、献血への関心と親しみを持っていただく。	
参加者 100名	献血推進団体との連携事業	新規	各献血推進団体	通年	4回	新たにライオンズクラブとの研修会を行い、連携強化と献血協力者増を図る。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

岡山県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 平成25年度10代献血率6.9%	献血デザインコンテスト	新規	小学生、中学生、高校生、大学生、専門学校生	7月～3月	1回	郵送、Web、メールによる	デザインコンテストに応募する图案を作成する過程で、自らが献血に関する事項を調べ、共感や疑問を持つことで献血の重要性と必要性への理解を深める。優秀作品は表彰し広報資料に活用する。
	いのちと俳句コンテスト	継続	主に小学生、中学生、高校生、大学生、専門学校生	2月	1回	郵送、Web、メールによる	献血に関する俳句を詠む過程で、自らが献血に関する事項を調べ、共感や疑問を持つことで献血の重要性と必要性への理解を深める。優秀作品は表彰する。
	小学生・中学生献血体験教室	新規	小学生、中学生	7月、12月	2回	イオン倉敷ショッピングセンター他	ショッピングモールにおいて、小学生に献血の疑似体験を行う。また、中、高、大学生が採血業務の疑似体験を行う事により普及啓発を図る。併せて将来的な献血者の確保に繋げる。
	ふれあい移動献血車	継続	高校生	4月～3月	15回	県内各高校	近年減少傾向にある若年層の献血者を確保するため、出前講座による普及啓発と併せ積極的に学内での献血実施を行う。
	献血de雑誌もらっちょおうキャンペーン	新規	高校生、大学生、専門学校生	4月～3月	平日約230回	献血ルーム等	10代、20代に人気の週刊誌を発売日とその翌日に限定し、処遇品として進呈する。市内の学校等に周知のポスターを掲示し、献血率の向上を図る。
20代の献血者及び献血率の目標値 平成25年度20代献血率8.8%	学連主催献血キャンペーン	継続	大学生・専門学校生	4月～12月	4回	街頭献血	学生ボランティア団体主催の献血実施場所において、ボランティアと同世代の若年層の献血者の増加を図るとともに献血の啓発を行う。
	学生ボランティア献血セミナー	継続	大学生・専門学校生	6月	1回	県内研修施設	学生ボランティアの献血に関する知識向上及び、メンバー間の親睦を深めることで、団体としての意識の向上、質の向上をさせることを目的とする。
	就職お役立ちマナー講座	新規	大学生・専門学校生	4月～3月	6回	血液センター	就職活動を含めた大学生、専門学校生をターゲットとして、固定施設に講師を招き面接・企業訪問時、就職後のビジネスマナー研修および献血に関する講義を実施し、固定施設の周知を図るとともに、若年層献血者の増加を図る。
	大学献血プレゼントキャンペーン	継続	大学生・専門学校生	4月～3月	30回	大学構内、専門学校内の献血会場	大学内の献血実施時に献血頂いた学生にカップラーメンを贈呈し、大学生の献血者、特に初回献血者を増加させる。
	新入生限定キャンペーン	新規	大学生・専門学校生	4月～6月	母体開所日全日	血液センター	新学期を迎えた学生を対象に血液センターで献血頂いた学生に記念品を進呈する。固定施設(母体)の認知度を向上させると共に若年層の増加を目的とする。

その他の目標値 出前講座年間30回実施 親子体験教室14回実施	赤十字出前講座	継続	高校生	4月～3月	30回	県内各高校	実施にあたっては、県支部とタイアップしてAED講習と併せておこなっている。3ヶ年で県内全ての高校での実施を考えている。
	夏休み小学生親子 血液センター体験 教室	継続	小学5、6年生および 保護者	7月～8月	14回	血液センター	県教育委員会の後援をいただいた後、県内各小学校に参加依頼文・チラシを郵送し参加者の募集を行う。併せて、HPによる参加者募集の呼び掛けも行う。

イ. 企業等における献血の推進対策

岡山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
未実施協力団体に対し、30社新規登録を行う。	献血協賛企業確保対策	継続	未実施協力団体	4月～3月		県内各未実施協力団体	現在、献血未実施である協力団体を訪問し、献血への理解を頂くとともに、実施を依頼し協力企業数の底上げを図る。
休眠協力団体に対し、20社に献血実施の依頼を行う。	献血協賛企業確保対策	継続	休眠協力団体	4月～3月		県内各休眠協力団体	現在、休眠状態である協力団体を訪問、掘り起こしを図り協力企業数の底上げを図る。
ライオンズクラブの協力件数を9件増加させる	各種団体等における献血の推進対策	継続	ライオンズクラブ	7～8月	1回	県下研修施設	岡山県下のライオンズクラブを一同に会し、行政や患者団体等と連携して岡山県の血液事業の現状と課題点、改善点、岡山県の高度医療を支えるための方策等話し合う。
県北地域の採血一稼働あたりの採血人数を2人増加させる。	各種団体等における献血の推進対策	新規	医療機関、県市町村、ライオンズ他	11月	1回	津山供給出張所	血液の安定供給に関する会議を開催し情報交換を行うとともに、県北における血液事業の在り方を検討し血液の確保の必要を啓発する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

岡山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
イベント実施日の献血者数を他の曜日の50%(20名)増	鉢花キャンペーン	継続	固定施設での献血者	4月～3月		製剤集約以降、特に血小板の採血必要数が高まった月曜～水曜の確保強化対策の一環として、母体では毎週火曜日、ルームでは毎週水曜日鉢花を提供し確保を図る。また、曜日を限定することで継続的な協力を促す。	
年間の血小板献血者数の40%	予約献血ポイントキャンペーン	新規	血小板成分献血協力者	4月～3月		ポイントカードを作成し、初めて血小板献血へ協力いただいた方に配布する。その内、予約いただいた方にポイントを付与し、獲得したポイント数に応じた記念品を進呈する。また、併せてカードが一杯になった方には改めてカードを配布し、継続的な協力をお願いする。それにより、当日の血小板献血数を予測し、確実な確保を図る。	
血小板成分献血協力者を1600人/月確保する	お米プレゼント	新規	血小板成分献血協力者	4月～3月		血小板成分献血協力者に対し、処遇品としてお米(1kg)を進呈する。他の種類の献血者と差別化を図ることで、継続的な協力、安定的な採血体制を確立する。	
メール及びハガキの要請に対する応諾率20%以上	メール・ハガキ来て見てキャンペーン	新規	全献血者	4月～3月		全献血会場(移動及び固定)での過去献血協力者に対しメールまたはハガキで献血依頼を行う。献血時に当該依頼ハガキまたはメールを提示いただいた方に記念品を進呈する。継続して依頼を行う事により、リピーターの数が増加させ、安定的な確保を図る。	
母体の採血数を1実施日当たり5人増加させる。実施期間を通して合計120人増加させる。	ハーゲンダッツアイスキャンペーン	新規	母体での献血者	7月～9月	24回	製剤集約以降、特に血小板の採血必要数が高まった月曜～水曜の確保強化対策の一環として、毎週月・水曜日に母体での献血者に対しアイスクリームを提供する。特に大学生が夏休みである8、9月の増加を図るため、実施にあたり事前に近隣の大学へポスター掲示による周知を行う。併せて、複数回メールクラブ会員への周知も行う。	
固定施設における年末年始の献血協力者を750人確保する	年末年始キャンペーン	新規	固定施設での献血者	12月～1月	12回	年末年始に献血された方に対しお菓子の詰め合わせを提供する。なお、12月31日、1月2日の両日、血小板の完全予約制で母体での献血者に対する予定であるが、特に年始に予約された方に対し「ぜんざい」のサービスも併せておこなう。それにより、協力が得られにくい年末年始の血小板製剤をブロックからの計画通り確保する。	
新規登録者270人/月(移動施設)180人/月(センター)50人/月(ルーム)60人/月	複数回献血クラブ新規会員登録キャンペーン	新規	献血経験者	4月～3月		複数回献血クラブの式会員を獲得するため、各会場において献血履歴のある方にクラブへの入会を勧奨し、入会者に記念品を進呈する。同時に、過去に献血経験のある方にクラブのチラシや岡山県の血液事業についての資料を送付し、勧誘する。また、従来ハガキで行っていた献血会場の案内告知を封書に切り替え、チラシを同封して周知を図る。	
献血者580人増/年	「献血Now!」キャンペーン	新規	全献血者	12月～3月		各献血会場で、献血を行った方を対象にその場でSMSに「献血Now!」と書き込んでいただく。その画面を提示された方また、知り合いの書き込みを提示し献血された方に記念品を進呈する。書き込みを行う事により、献血者自身の社会に貢献しているという社会的欲求を満たすと共に、読んだ人へも献血への自発行動を促す。	
自筆ハガキの要請に対する応諾率40%以上	自筆ハガキキャンペーン	新規	400mL献血協力者	(配布期間)9月～10月(交換期限)3月末		血液不足時等に安定的に血液を確保することを目的に、400mL献血者を対象として接遇時に自分あての依頼ハガキを置いていただく。実際に血液が不足した際に当該ハガキを投函し血液を確保すると共に、複数回献血者数の増加を図る。	

献血者1,400人増/年	Anniversary 献血キャンペーン	新規	固定施設での献血者	4月～3月		「家庭」という単位で献血の思想普及を図ることを目的に、本人、配偶者、子供等の誕生日に献血していただいた方に記念品を贈呈する。親子で助け合う心を育むきっかけとし、年間を通して継続的な協力をいただく。
400mL献血者1,000人増/年 初回献血者500人増/年	400mL献血ポイントカードキャンペーン	新規	400mL献血協力者	4月～3月		400mL献血者を対象に献血1回毎に1ポイントのカードを渡す。また、初回者を同伴した献血できた場合も1ポイント券を渡す。ポイント数に応じて、プレゼントを設定し、規定のポイントに達した場合、該当する記念品を贈呈する。ポイント獲得に向けて、複数回の協力率の増加および初回献血者の増加を図る事を目的とする。
献血者2,400人増/年	献血ルームももたらう献血ツアーキャンペーン	新規	全県民	4月～3月	48回	県内の保健所単位で400mL献血希望者50人を募集し、貸し切りバスで移動オープンした献血ルームの見学および献血を体験していただく。これにより、固定施設の周知を図ると共に、献血バスの配車が難しい地域から参加いただくことにより献血者の裾り起こしにも繋がる。
献血者280人/年	初回献血者紹介「一緒に献血！」キャンペーン	新規	固定施設での既献血者	4月～3月		固定施設での既献血者を対象として、新規および初回献血者を紹介していただく。一緒に来場された紹介者と既献血者をデジカメで撮影、パソコンで加工後フォトフレームに入れ贈呈する。新規献血者の増加を図ると共に、しばらく献血から遠ざかっていた新規献血者をとりこむことにより、献血者全体の底上げを図る。
献血バスでの献血者数80名	フジアールノサッカー観戦者イベント	新規	全県民	4月～5月		地元のリリークラブ「フジアール岡山」のホームゲーム開催日にバスを配車し献血を実施する。当日の献血者にはクラブオフィシャルグッズ及び選手のサイン引換券を贈呈する。また、複数回クラブに入会された方には、別途処遇品(うちわ)を贈呈する。サポーターを対象とすることで、若年層対策の一助とし、またスタジアムに隣接する母体の周知も図る。
固定施設での前年同時期、同曜日の献血者数20%増	世界献血者デーイベント	新規	全県民	6月		より多くの方に安全な血液や定期的な無償献血の重要性に対する認識を広めると共に、HP掲載や海外時の事前周知により全県民を対象に献血への協力を図る。当日は全会場で献血協力者に対して記念品を贈呈し、継続的な協力を求める。また、報道機関等を通じて、安全な血液や定期的な無償献血の重要性をアピールする。
イオンモール倉敷での献血者420人増/年	イオンモール倉敷献血deグルメイベント	新規	イオンモール倉敷での献血者	4月～3月		イオンモール倉敷での献血者に対し、当日献血の印字がある献血カードを同店内に出店している飲食店等で提示すると、割引等の特典を付与する。同会場での献血者数増加を図ると共に、恒常的に行事によりリピーターの増加も図る。
イベント実施月の出張所における複数回クラブ入会者90名	表町出張所60万人達成イベント	新規	全県民	8月頃		H25.8月頃に表町出張所開所より通算60万人を達成する見込みである。それに伴い、式典を開催し、大学生による演奏、くす玉割り、当該献血者への記念品贈呈・写真撮影等を実施する。マスコミの報道により、全県民に対し移転後約1年となる献血ルームの一層の周知を図る。また、将来的な献血者確保に繋げる。
イベント実施月の出張所における複数回クラブ入会者90名	献血ルームももたらう10・10開設イベント	新規	全県民	10月		献血ルームの移転オープンした日である10月10日を「10・10献血ルームももたらうデー」と命名し、毎年各種イベントを実施する。1年目である今年度の内容は、岡山ゆかりの著名人による公演やショーを行う。毎年継続的に実施することにより、マスコミの報道を通じて、全県民に対し献血ルームの一層の周知を図ると共に、献血の重要性を呼び掛ける。
津山市及び近隣の住民に対し年4回実施。1回当たりの参加人数30名。全員にアンケートを実施。「次回献血の機会があれば協力する」の回答が85%以上	津山供給出張所内見学ツアーイベント	新規	津山市及び近隣の住民	4月～3月		津山供給出張所の近隣住民に対し、献血した血液がどのような過程を通して医療機関へ届けられているのか説明することにより、意識の向上を図ると共に献血への協力を呼び掛ける。参加者にはパネル展示・DVD上映による説明、施設内見学等を実施し、記念品を贈呈する。

津山供給出張所での献血者数36人	献血さくら祭り津山開設一周年記念イベント	新規	津山市及び近隣の住民	4月		津山供給出張所の開設1周年に併せ、近隣住民を対象に模擬店、パネル展示、移動採血車の配車等のイベントを実施する。当該イベントにより、献血をより身近に感じいただき協力者が減少しがちな年度初めの献血者の確保に努める。
複数回献血者の目標値 複数回クラブ会員へのメールによる要請で応募者数1,000人以上および会員数2,400人増加	複数回献血者確保事業	継続	複数回クラブ会員	4月～3月	12回	引き続き、血液不足時の献血要請だけでなく通常時に複数回協力頂けるよう定期的な依頼を行う。また、サイトスタンプを活用し、会員数を2,400人増加させる。
・同一献血会場での過去献血者へのハガキによる献血要請で応募者12,500人以上	複数回献血者確保事業	継続	同一献血会場での過去献血者	4月～3月	4,200回(要請回数)	同一献血会場での過去献血者(過去3回分について検索)へハガキによる要請を年間4,200回行う。それにより事前周知を図るとともに、献血の重要性を認識していただく。
・年1回協力の(企業・団体)に対し、20社に複数回実施への移行を行う。	複数回献血者確保事業	継続	年1回協力の(企業・団体)	4月～3月		事業所等へ献血実施の依頼等で渉外活動を行う際、血液事業の現状を説明し年複数回協力いただけるよう要請する。
その他の目標値 献血者1,400人/年	「Anniversary」献血キャンペーン	新規・継続	全献血者	4月～3月		誕生日、結婚記念日等献血者の記念日に県報有にいただいた場合、記念品を贈呈する。本人だけでなく、家族や知り合いの方へ周知いただくことにより新規、及びリピーターの確保を図る。

エ. その他

岡山県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
血小板成分献血の実献血者を4,800人確保する。	固定施設における成分献血の確保	継続	血小板成分献血協力者	4月～3月	20回	岡山市内の大学・専門学校等に「血小板成分献血の協力をお願い」ポスターの掲示、およびチラシの配布を行い、固定施設での成分献血の参加を呼び掛ける。キャンペーン期間中に学生証を提示して下さった方に記念品を贈呈する。
献血ルームでの400mL献血者を3,000人増加させる。	固定施設における全血献血の確保	継続	移動施設での400mL献血協力者	4月～3月		移動施設での献血時に、移動施設でチラシを配布し、持参された方に記念品を贈呈する献血キャンペーンを実施し安定的な全血献血の確保に努める。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

広島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 10代献血者数6,750人 献血率6.2%	献血セミナー	継続	中高生	平成25年4月～平成26年3月	20回以上	各学校	広島作成の献血推進用DVDの放映や、スライド学習等を利用し、献血を身近なものと感じてもらい、血液の重要性を訴えていく。
	卒業記念献血	継続	高校生	平成26年1月	随時	各学校	献血セミナー実施校に卒業献血協力をお願いし、400mL献血、初回、10代の献血者増加を図る。
20代の献血者及び献血率の目標値 20代献血者数23,800人 献血率8.2%	学内献血	継続	大学生	平成25年4月～平成26年3月	随時	各学校	献血実施前、又は実施時に献血教室を開催し、献血思想普及を図る。学内献血者数を500人増加させる。
	大学生セミナー	継続	大学生	平成25年6月・11月	2回	血液センター	献血実施前に献血セミナーを開催し、献血に対する理解や知識の向上を目指す。
その他の目標値 施設見学、体験学習等参加者 4,000人	赤十字プラザ見学研修	継続	小・中・高・大学生等	平成25年4月～平成26年3月	随時	血液センター	赤十字プラザの広報活動を行なうとともに、見学研修等を積極的に受け入れて献血啓発活動を行なう。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規サポーター33団体以上確保	献血協賛団体確保対策	継続	協賛未加入団体企業	平成25年4月～平成26年3月	随時	各事業所等	企業及び各大学等において渉外活動時に、サポーター加入を積極的にお願ひし、協賛団体増加を図る。
各種ボランティア10団体の研修	ボランティア団体の研修会	継続	ボランティア団体	平成25年4月～平成26年3月	各1回以上	血液センター	各ライオンズクラブ、天理教広島教区等を対象とした研修会を行い、血液事業を取り巻く現状への理解度を高め、一層の協力要請を求める。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

広島県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 複数回献血クラブ新規会員数 5,600人	複数回献血クラブ会員募集	継続	献血者	平成25年4月～平成26年3月	随時	複数回献血クラブ会員募集の広報活動を行なうとともに、採血現場における会員募集を実施する。	
	年度内複数回献血の促進	継続	初回・新規者	平成25年4月～平成25年12月	随時	初めてまたは久しぶりの献血への礼状を送付し、年度内の再来を促す。また複数回献血クラブ会員の増加に繋げる。	
その他の目標値 血小板献血要請応諾率27% 400mL献血要請応諾率40%	誕生日要請	継続	血小板成分献血者	平成25年4月～平成26年3月	12回	メール及びはがきを送付し、前年度献血協力者の再来を促す。	
	地域献血要請	継続	400mL献血者	平成25年4月～平成26年3月	12回	メール及びはがきを送付し、前回献血参加会場への再来を促す。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
栄養士による栄養相談 固定施設・移動採血会場48回実施	献血者健康増進事業	継続	献血参加者	平成25年7月～平成26年3月	固定施設35回 移動採血13回	献血できなかった献血申込者に対して、栄養士による健康相談を実施する。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

山口県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値:5.2%(2,500人) 20代の献血者及び献血率の目標値:7.9%(9,500人)	LOVE inAction 山口 腕まくりプロジェクト	継続	10代・20代の 献血協力者	通年	6,000		①「腕まくりポイントカード」
					6,000		②「腕まくりメール」
					52回	エフエム山口による情報番組	②「腕まくりハートフルリレー」
					20校	県内高校	②「腕まくり高校献血増加計画」
					25回	県内大学	②「腕まくり大学献血出店作戦」

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
20社を目標	献血協賛企業活動推進事業	継続	献血協力企業・団体	通年			①ホームページによる募集
		継続		通年	200		②推進担当者による協力団体への個別訪問
		新規		通年	30		③各協力団体への説明会・研修会での募集
		新規		通年	600		④協力団体への文書による募集

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 (新規会員登録者数) 1,800人	複数回献血協力者確保事業	継続	年2回以上の 協力可能献血者	通年	25,000部		①クラブ情報誌の作成及び配布
		継続		通年	25,000部		②新規会員登録用リーフレットの作成及び配布
		継続		11月	1		③クラブ会員対象の講演会の開催
		継続		通年			④血液不足時の緊急要請

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

徳島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血率を6.2%にする	学内献血	継続	高校生	学校行事に合わせて	20回	各高等学校内	学内献血実施校数を増やし10代の献血者を確保する。
	マチャ★ソビ	継続	若年層	イベントに合わせて	2回	イベントに合わせて	アニメイベント参加者に献血をPR
	JRC 献血キャンペーン	継続	若年層	12月、3月	2回	献血ルーム	JRC部員による献血キャンペーンを実施し 同世代の献血者にPR
20代の献血者及び献血率の目標値 献血率8.9%を維持	キャンパス献血	継続	大学生	学季の予定に合わせて	1大学6回位	各キャンパス	キャンパス献血の実施回数を増やし若年層を確保
	クリスマス 献血キャンペーン	継続	若年層	12月	1、2回	献血ルーム、移動採血	学季による献血キャンペーン
	バレンタイン 献血キャンペーン	継続	若年層	2月	1回	献血ルーム	学季による献血キャンペーン
その他の目標値	血液ゼミナール	継続	小学生・保護者	夏休み期間中	12回	血液センター	センター近隣の市町村の教育委員会の承認を得、募集チラシを配布し参加者を募集し、センター見学、学習会を実施する。
	献血セミナー	継続	小・中・高校生	学校行事に合わせて	20回位	各学校にて	若年者を対象とし献血の重要性等を伝え、今後の献血予備軍とする。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠企業・団体等を 10社増やす。	献血協力企業・ 団体増加対策	継続	企業及び団体	4～3月	30回位	各事業所	新規事業所の開拓及び休眠企業・団体等の掘起しを 保健所と連携して行う。
研修会、意見交換会を 2回開催する。	献血協賛企業活動 推進対策	継続	ライオンズクラブ担当 者協賛企業担当 者	7～8月	2回	未定	県下ライオンズクラブ担当者及び献血協力企業担当者 に対し血液事業の現状説明と意見交換会を実施すること で献血推進を図る。
献血サポーター企業・団体を 5社増やす。	献血協賛企業活動 推進対策	継続	献血協賛企業	通年	15回位	各事業所等	献血に協力いただいている企業・団体を訪問し、 献血サポーターへの参加を依頼する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

徳島県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規モバイル登録者数を 410名 (対前年度比110%)	複数回献血者 確保事業	継続	未登録献血者	通年	10回位	会員募集リーフレットを作成し、新規登録者数増加を図る。 学内、キャンパス献血実施時に10回程度サイトスタンプにて会員確保を図る。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

香川県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.0% 2070名	高等学校献血	継続	高校生	通年	10回	高等学校	県内の公立、私立高校に献血バスを配車し、400ml献血を実施(目標450名)。
	若年層献血セミナー	継続	高校生	通年	5回	高等学校	血液センター職員による献血出前セミナー(目標500名)。
20代の献血者及び献血率の目標値 9.0% 7920名	大学・専門学校献血	継続	大学・専門学生	通年	30回	大学・専門学校	県内の大学・短大、専門学校に献血バスを配車し、400ml献血を実施(目標1200名)。
	若年層献血セミナー	継続	大学・専門学生	通年	5回	大学・専門学校	血液センター職員による献血出前セミナー(目標500名)。
セミナー実施後アンケートを実施し、参加者800名のうち50%以上の方から、献血可能年齢に達した際に献血に行くとの回答を得る	小学校献血セミナー	継続	小学生(4・5・6年生)	通年	10回	小学校	血液センター職員による出前セミナー(目標800名)。
	小学生親子血液センター見学教室	継続	小学生(5・6年生)保護者	8月	5回	香川県赤十字血液センター	一日25組で5日間実施。献血セミナー及び血液センター施設内見学。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
25年度新規協賛企業20社	献血ルーム献血協賛企業	継続	献血ルーム周辺企業	通年	随時	献血ルーム	献血ルーム周辺企業に献血の協賛を呼び掛け(月約2社)。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
ピコメール会員数 +1000名	ピコメール会員加入の推進	継続	献血者	通年	随時	会員数を年間で+1000名を目標とし、バス、ルームともに進捗状況を監視する。特に若年層への推進を強化。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

愛媛県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所 内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 16歳から19歳 2,821人 (年齢人口に対して5.5%とする)	高校献血出前講座	継続	高校生・教員	5月～2月	20校(20回)	県内高等学校
	中学献血出前講座	継続	中学生・教員	5月～2月	30校(30回)	県内中学校
	高校献血実施	継続	高校生	5月～2月	40校	県内高等学校
20代の献血者及び献血率の目標値 20歳から29歳 11,250人 (年齢人口に対して9.0%とする)	大学献血出前講座	継続	大学生・教員	4月～6月	7校(7回)	各大学
	大学サークル代表委員への献血講座	継続	大学生	5月～11月	4校(8回)	各大学
	大学内献血実施	継続	大学生	4・5・7・11月	5校(11回)	各大学
	専門学校出前講座	新規	その他学生	5月～1月	4校(8回)	各専門学校
その他の目標値 16歳から29歳の献血者 (4月～イベント締切までの1月までの8か月間に9,380人を目標とする。)	若年層献血アクションイベント	新規	16歳～29歳	12月	1回	松山市コミュニティセンター文化ホール

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所 内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血協力企業の増加 (15社/年)	新規事業所確保	継続	企業及び団体	4月～3月	15社	各事業所

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

愛媛県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血登録者の目標値 (1200人/年)	複数回献血協力者確保強化キャンペーン	継続	献血協力者	4月～3月	移動献血車543回 配車 献血ルーム363回開所	献血者全員にリーフレットを配布しクラブ会員としての意思付けと複数回献血の意義を伝える。特に、企業・街頭・大学での新規の会員登録をお願いする。 また、ライオンズクラブ等の協力団体にもお願いし、会員からの紹介により新規登録者を確保する。献血ルームにおいては、血小板献血の複数回協力者を確保し、血小板確保に努める。メール会員を増や成分献血の予約制度を充実させる。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者数180名 (初回献血者15%)	夏の献血キャンペーン2013	継続	県民全般	7月	1回	大型商業施設内でのイベント開催をする。事前にラジオ等による審査を行い、広く夏場の献血協力を呼びかける。高校生ボランティア・大学生ボランティアの協力を得て、広く献血者に呼びかける。またイベントステージによる若年層の献血の現状等説明等実施する。また、ゲストによる来客および献血啓発呼びかけをし、献血者確保に努める。
献血者数150名 (初回献血者10%)	冬の献血キャンペーン2014	継続	県民全般	1月	1回	大型商業施設内でのイベント開催をする。事前にラジオ等による審査を行い、二十歳の献血キャンペーン期間に伴い広く若年層への献血協力を呼びかける。高校生ボランティア・大学生ボランティアの協力を得て、広く献血者に呼びかける。またイベントステージによる若年層の献血の現状等説明等実施する。また、ゲストによる来客および献血啓発呼びかけをし、献血者確保に努める。
小学生親子体験教室 (25組の50名)	献血セミナー	継続	小学生・保護者	8月	5回	献血年齢に満たない小学生(高学年)を対象にセンター見学で献血に興味をもっていたり献血思想普及を図る。
中四国ブロック血液センター見学 (4団体40名参加、献血者は参加者の60%の24名)	献血セミナー	新規	高校生・大学生	8月	1回	日帰りバスツアーにて、中四国ブロックセンターを見学。地域センターにおいては、検査・製造過程の見学ができないため、血液センターの役割、献血の必要性を理解いただく。公署に関しては、(高校生)ヤングボランティア、(大学生)学生赤十字奉仕団・大学ボランティア・ロータリークラブの4団体からの参加依頼をし、40名の見学とする。また、参加者のうち6割(24名)以上の献血協力を頂くと共に、参加者は、自分の高等学校や大学内での校内献血において事前広報や、学生への呼び掛けを頂きより広く若年層の献血を推進していく。

3. 採血計画

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策
ア. 若年層献血者確保対策

高知県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2,300人 献血率 8.0%	学内献血	継続	学生・一般	通年	15回	実施校 校内	・学域において入学時等に移動採血車を配車し、学生ボランティアとともに啓発と献血を実施する(事前広報等の強化)。
	はたちの献血	継続	学生・一般	1月	街頭1回(1月)	・ショッピングセンター	・関係機関・団体及び学生ボランティアによる街頭啓発を行い、併せて献血を実施する。
	バレンタインデー	継続	学生・一般	2月	・街頭1回(2月) ・ルーム1回(2月 8日間)	・ショッピングセンター ・献血ルーム	・移動採血会場において学生ボランティアによる街頭啓発を行い、併せて献血を実施する。 ・献血依頼ハガキを送付し、献血いただいた方に記念品を贈呈する(献血ルーム)。新聞無料掲載(高知新聞「伝言板」)
	はた路の献血・減少期対策 ※ 下記のエ. その他に記載の事業						
	初回献血者確保	継続・新規	学生・一般	通年		・大学、専門学校等 ・各献血会場	・学域を中心に初回献血者の確保を強化する(事前広報等)。 ・初回者献血キャンペーンを実施する。 ・初回者中心の献血実施 ・初回者、初回者の紹介者に記念品贈呈 ・広告宣伝等の広報活動の実施 ・高等学校等での出前講座などを活用して、卒業後の献血推進強化に取り組む。
20代の献血者及び献血率の目標値 7,300人 献血率 11.7%	学内献血						
	はたちの献血						
	バレンタインデー		上記10代の事業に	同じ			
	はた路の献血・減少期対策 ※ 下記の エ. その他に記載の事業						
	初回献血者確保	継続・新規	学生・一般	通年		・大学、専門学校等 ・各献血会場 (企業・事業所等を含む)	・学域を中心に初回献血者の確保を強化する(事前広報等)。 ・初回者献血キャンペーンを実施する。 ・初回者中心の献血実施 ・初回者、初回者の紹介者に記念品贈呈 ・広告宣伝等の広報活動の実施

3. 採血計画

イ. 企業等における献血の推進対策

高知県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規登録12企業・団体	献血協力団体との連携強化	継続		通年			・渉外活動において、登録団体の確保と新規団体の開拓するとともに、会合等に積極的に参加し、情報提供に努める
ライオンズクラブ協力率23%	献血推進団体との連携強化	継続		通年	3回	中央公園、各事業所等	・ライオンズクラブ定例会(会長幹事会)、献血研究会に出席し、情報提供及び献血推進強化の依頼を行う。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回クラブ登録600名	誕生日献血キャンペーン	継続	各月に誕生日を迎える献血者	通年	12回		・誕生日に献血ルームから献血依頼ハガキを送付し、献血者には記念品を提供する。
	複数回献血クラブ登録推進	継続	献血クラブ未登録献血者	通年			・複数回献血の呼びかけ強化し、複数回献血・登録に記念品を提供する。
	クイックマッサージ	継続	献血希望者(献血ルーム)	11月～2月	1回(延べ40日)		・献血呼びかけの新聞無料掲載(高知新聞「伝言板」)等で広報を実施し、複数回献血に結びつける(献血ルーム)。 事前に周知用依頼ハガキの送付。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者数200人、400構成比92%、若年層比率10%、複数回登録10名	〔献血推進啓発〕 ・はた路の献血	新規	県西南地域の住民	4月又は5月	1回		・県西南地域の移動採血計画時に、学生ボランティアを動員し、献血推進の啓発・献血を実施する。若年層の献血者確保のため、実施日の工夫を検討する(土・日の実施)。
ハガキ1,000枚送付 応諾率20%、献血者200人	〔減少期対策〕 ・ゴールデンウィーク	継続	献血希望者	・街頭:4月中旬 ・献血ルーム:4月27日～5月6日(前後)	・街頭 1回 ・献血ルーム		・学生ボランティアによる街頭啓発を行い、併せて献血を実施する。 ・献血依頼をハガキを送付し、献血者には記念品を贈呈する(献血ルーム)。
ハガキ1,500枚送付 応諾率20%、献血者300人	〔減少期対策〕 ・サマーキャンペーン	継続	献血希望者	7月～9月	3か月間		・関係機関・団体及び学生ボランティアによる街頭啓発を行い、併せて献血を実施する。 ・献血呼びかけの新聞無料掲載(高知新聞「伝言板」)等で広報を実施し、来所された方にアイスクリーム進呈し、複数回献血に結びつける(献血ルーム)。 ・事前に周知用依頼ハガキの送付。
400mL実献血者60人×4回 合計 240名	〔減少期対策〕 ・クリスマスキャンペーン	継続	献血希望者	12月	4回		・移動献血会場をメインに学生ボランティアによる啓発活動を行い、併せて献血を実施する。
必要に応じてハガキ送付 応諾率20%	〔減少期対策〕 ・血小板確保	継続	ルームでの成分既献血者	随時(通年)			・血小板の減少期に随時ハガキによる献血依頼を行い、確保の強化に努める。 ・依頼ハガキにより協力いただけた方に記念品を贈呈する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

福岡県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 11,218人	広報	継続	高校生	10月～3月	6	福岡市内	フリーペーパーによる献血の呼び掛け
	広報	継続	高校生	4月～3月	1	福岡市内	福岡市内中心部の循環バスに若者向けのメッセージを装したラッピングバスの運行
	キャンペーンの強化	継続	10代	8.12.1.2.3月	10	福岡県内	キャンペーン実施時にプロスポーツ団体のキャラクターによる呼び掛け
	高校献血推進	新規	高校生	4月～3月	1	福岡県内	臨時職員による高校の徹底的な推進を行い、実施率を16%⇒21%に引き上げる
20代の献血者及び献血率の目標値 45,662人	広報	新規	大学生・社会人	10月～3月	6	福岡市内	フリーペーパーによる献血の呼び掛け
	広報	新規	大学生・社会人	4月～3月	1	福岡市内	福岡市内中心部の循環バスに若者向けのメッセージを装したラッピングバスの運行
	広報	新規	大学生	4月～3月	1	福岡県内	内10大学の食堂や売店の箸袋に献血に関する広告を載せ
	キャンペーンの強化	継続	10代	8.12.1.2.3月	10	福岡県内	キャンペーン実施時にプロスポーツ団体のキャラクターによる呼び掛け
	専門学校推進	新規	専門学校生	4月～3月	1	福岡県内	臨時職員による専門学校の徹底的な推進
その他の目標値 50回	献血セミナーの開催	継続	小・中・高・社会人	4月～3月	50	福岡県内	献血セミナーを実施し、高校献血や企業の献血につなげる

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
5社	入社式や研修等での献血やセミナーの実施	継続	主に新入社員	4. 5. 9. 10月	2	(株)ホシザキほか4社	入社式や研修時に新入社員を対象とした献血やセミナーを行い、若年層献血者を確保する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

福岡県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 3,300人	サイトスタンプによる献血登録者確保	継続	複数回献血未登録の献血者	4月～3月	1	D.M.やチラシによる案内と献血会場での口頭による勧誘を行い登録者を募る。登録方法はサイトスタンプを用いて行い、登録者には粗品を提供する。	
その他の目標値 200人	スタンプキャンペーン	継続	献血者	8.12.1.2.3月	1	若年層確保対策のキャンペーン(サマー、クリスマス、はたちの献血、バレンタインデー、ホワイトデー)時に複数回献血をされた方に処遇品を提供する	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
19,405人	初回献血者紹介キャンペーン	継続	10～20代	4月～3月	1	学生献血推進協議会メンバーや献血者から献血経験のない方を紹介してもらうキャンペーンを実施して、初回率を10代を67%⇒70%、20代を22%⇒25%まで引き上げる	
18大学	ボランティア組織の拡充(大学)	継続	大学生	4月～3月	1	学生献血推進協議会等のボランティア組織を16⇒18大学に拡充する	
4校	ボランティア組織の拡充(専門学校)	継続	専門学校生	4月～3月	1	学生献血推進協議会等のボランティア組織を0⇒4校に拡充する	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

佐賀県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.1%	高等学校における献血セミナー	継続	高校生	通年	10	学内	県・教育委員会等と協力し実施校及び未実施校に開催の働きかけを行う。
	大学・短大等における献血セミナー	継続	大学・短大生等	4月・10月・12月	8	学内	学生ボランティアと協力しながらチラシ等の配布を行う。また、けんけつちゃんの着ぐるみを活用して大学生等が献血しやすい雰囲気を作る。
	若年層献血キャンペーン	新規・継続	10代の若年層	年2回	2	献血プラザさが・移動採血	若年層をターゲットにキャンペーン期間を設定し、特別記念品を配布する。
	広報における献血啓発	新規	10代の若年層	実施時期未定	1	献血プラザさが・移動採血	啓発番組作成及びCMによる広報、啓発用リーフレットの作成
	J1「サガン鳥栖」とのコラボ	新規	10代の若年層	実施時期未定	1	未定	J1「サガン鳥栖」とのコラボによる若年層への献血啓発活動
20代の献血者及び献血率の目標値 8.2%	日赤佐賀県支部とのコラボ	新規	10代の若年層	通年	12	未定	高校等における各種講習会に併せての献血啓発活動
	大学・短大等における献血セミナー	継続	大学・短大生等	4月・10月・12月	8	学内	学生ボランティアと協力しながらチラシ等の配布を行う。また、けんけつちゃんの着ぐるみを活用して大学生等が献血しやすい雰囲気を作る。
	若年層献血キャンペーン	新規・継続	20代の若年層	年2回	2	献血プラザさが・移動採血	若年層をターゲットにキャンペーン期間を設定し、特別記念品を配布する。
	広報における献血啓発	新規	10代の若年層	実施時期未定	1	献血プラザさが・移動採血	啓発番組作成及びCMによる広報、啓発用リーフレットの作成
	J1「サガン鳥栖」とのコラボ	新規	10代の若年層	実施時期未定	1	未定	J1「サガン鳥栖」とのコラボによる若年層への献血啓発活動
その他の目標値 学生ボランティア新メンバー5名以上の確保	若年層献血セミナー	継続	大学・短大生	5月	1	血液センター	大学生・短大生等を対象に新生学生ボランティア勧誘のための献血セミナーを血液センターで行う。

イ. 企業等における献血の推進対策

佐賀県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
年間4回	協力団体並びに推進団体の紹介	継続	企業及び団体	4月・7月・10月・1月	4回	—	佐賀県の赤十字情報誌に各企業等の献血活動紹介や担当者の声を掲載する。
献血サポーター新規登録企業10社以上の確保	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	通年	—	各企業	各企業及び献血協力団体へパンフレット・規約等を持参して推進を行う。
企業献血における献血者数を前年比5%以上増加させる。	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	通年	—	各企業	各企業及び献血協力団体等の担当者に血液事業の現状等を説明して推進を行う。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 1,700名	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血者 (未会員)	通年	—	複数回献血クラブ会員登録方法を記載したパンフレットを複数回献血協力者で未登録の方に配布する。サイトスタンプを利用促進して登録の簡便化を図る。
その他の目標値 複数回献血者30%増	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	通年	—	複数回献血クラブ会員あてに献血者減少期を中心に複数回献血への協力を呼び掛ける。処遇時に次回献血可能日をお知らせして年2回以上きていただけるよう推進する。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血プラザさが(母体)献血者成分献血者20%増		継続	献血対象者	通年	—	過去1年間献血されていない方(約200人)へのダイレクトメール発信。母体周辺事業所への渉外活動の強化。
献血プラザさが(母体)献血者400mL献血者10%増		継続	献血対象者	通年	—	過去1年間献血されていない方(約200人)へのダイレクトメール発信。母体周辺事業所への渉外活動の強化。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

長崎県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

若年層献血者確保対策		具体的な対策・事業内容					
平成25年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.2%	高校献血の推進	継続	高校生	6月～2月	32	高等学校	17歳からの400ml献血を積極的に取り組み、献血セミナーの実施も増やしていく。私立高校(男子校)に比較して立高校の実施率が低いため、学校訪問を積極的に実施し、学校側の理解を得るように推進を図る。また行政との連携を図りながら、一緒に学校訪問を実施する。
	献血セミナー	継続	中高校生	4月～3月	5	学校又は献血会場	県内中学209校、高校79校あり、平成24年度は、中学校、高校3校程度予定、実施しているが、引き続き献血セミナーを実施していくため、高校献血推進時には、校内献血に併せ献血セミナーの実施も含めて積極的に推進する。
	献血セミナー	継続	大学及び専門学校生	4月～3月	2	学校又は献血会場	学生ボランティアの育成強化を行う。キャンパス内での献血協力やボランティア募集のためのチラシ配布を行う。西九州地区で佐賀センターとの合同ボランティア研修会を今後も継続していく。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.2%	大学献血の推進	新規	大学生	4月～3月	—	大学、短大	キャンパス献血では、専用の若年層用のポスター、チラシを作成し若年層へ献血を訴えていく。また大学内部に献血推進組織を立ち上げ、大学と連携しながら学生への献血推進を図る。ホームページに献血、輸血情報を掲載し、相互リンクにより情報を提供する。
	専門学校等	新規	専門学校生等	4月～3月	—	専門学校、教育機関等	ビジネス専門学校、警察学校、看護学校、自衛隊教育隊等移動献血車を配車して積極的に献血の協力を呼びかける。
その他の目標値 23.2%以上	10代、20代の献血構成比率の向上	継続	警察学校等	4月～3月	—	学校又は献血会場	平成24年度上半期10、20代献血者の構成比率は、22.7%であり、平成23年度の23.2%と比較して減少傾向にあるので、自衛隊、警察学校等の教育訓練期間中の学生への献血推進を強化していく。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
30社以上	新規又は掘り起し団体への献血推進	継続	企業又は団体	通年	—	固定施設及び移動採血	献血未実施企業・団体へ積極的に訪問し、血液の必要性や献血の方法について訴えていく。また、消防団等の訓練時に合わせた献血の実施についても推進していく。
50団体以上	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業又は団体	通年	—	—	献血実施いただいている企業・団体等にさらに登録をお願いする。今後も継続して献血支援を頂くためにも募集活動を続けていく。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

長崎県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 研修会の参加人数を60名以上とする	複数回献血協力者研修会	継続	複数回献血登録者	10月～11月	2回	ビデオ上映「ありがとう！っていっぱい言わせて」、赤十字健康生活支援講習(生活習慣病予防について)及びAED講習を開催する。
	200組(400名)	継続	複数回献血登録者及び献血協力者	11月	1回	献血協力者(複数回登録者)200組(400名)を映画上映に招待し、献血セミナー実施後、映画上映を行う。
その他の目標値 年間の実献血者で2回以上の複数回献血者の割合を30.6%にする	メールとハガキによる献血依頼	継続	複数回献血登録者及び献血依頼対象者	4月～3月	随時	キャンペーン期間、冬場等献血者確保が困難な時期を重点的に1年以内に協力頂いた献血者に対し、献血の依頼を行う。年間を通じて2回以上献血する実献血者の率を30.6%にする。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	西海ルームが平成3年に開設し、	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
月10台1車平均50名以上	休日献血の拡大	継続	献血者	通年	年間120回	商業施設や企業、地域のイベント等に合わせた休日献血を拡大していく。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

熊本県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値: 6.2%	「はじめよう献血」キャンペーン	継続(平成24年度半ばから開始)	16～19歳の方(主に400mL献血対象者)	通年予定	1回	県内の高校生及び専門学校生を対象に、リーフレット(献血推進及びキャンペーン告知)を作成し、学校から配布してもらい初回献血者確保と併せて推進を図る。 また、オリジナルグッズを作成し献血者に配布。 更に、若者向け情報誌、公共交通機関へのポスター掲示等により周知を図る。
	献血セミナー	継続	高校(高校生)	通年	15回(献血と併せ15校)	献血未実施校の開拓、献血セミナーを通じ採血車の配車及び献血ルームでの献血協力を図る。
20代の献血者及び献血率の目標値: 8.5%	「はじめよう献血」キャンペーン	継続(平成24年度半ばから開始)	20歳代の方(主に400mL献血対象者)	通年予定	1回	オリジナルグッズを作成し献血者(10,20代)に配布。 若者向け情報誌、公共交通機関へのポスター掲示等を通じ、周知を図る。 また、献血経験者にダイレクトメールを送付し、キャンペーン周知を図る。
	新成人への周知	継続	新成人	1月	1回	リーフレットを作成し、市町村を通じ新成人に配布。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
ロゴマーク配布数累計50社以上	献血協力企業活動推進事業	継続	企業・団体	通年		献血実施に係る打ち合わせ場所 献血協力企業・団体への依頼。情報誌でのロゴマークの募集PR。
県下全ライオンズクラブ献血研修会(58クラブ会員参加)	献血協力団体協力増加対策	継続	ライオンズクラブ会員	8月～9月	1回	パワーポイントと推進用DVDを活用して献血の現状や必要性を伝える。(高校献血実施に係る推進)
県下全保健所管内会議(企業60社・30団体参加、他10保健所・43市町村・30支所出席) H25年度400mL目標40,913人	献血協力企業協力増加対策	継続	企業・団体	2月～3月	10回	例年、保健所主催で管内の市町村と企業・団体の献血担当者を集め、献血の現状等を説明し啓発する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値: 平成23年度における年間1回のみ献血協力者70.1%⇒65.0%とし、約2,500人の複数回献血協力者増を目指す。	One More 献血キャンペーン	継続(平成24年度半ばから開始)	各献血会場で、400mL献血を協力し、期間中更に400mL献血を協力された方	平成25年4月1日～同30日 平成25年9月1日～平成26年3月31日	1回	期間中、県下各献血会場において400mL献血を協力された方にキャンペーンカードを渡し、同カード持参者にオリジナルグッズを配布する。 生活情報誌、ラジオ等メディアを通じた周知により推進を図り、「はじめよう献血」キャンペーンと連動させ若年層献血者確保にもつなげる。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

大分県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.2%	若年者献血セミナー	継続	高校生	通年	10	県内の高校を行政担当と訪問し、校内献血を含め献血セミナーの実施を依頼する。
	学内400mL献血キャンペーン	継続	高校生	通年	8	高校生が好む処遇品を進呈する。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.2%	学生献血サポーター	継続	学推協加盟の学生	7月	1	採血バスに同行し、献血会場周辺での献血啓発や大分トリニータのホームゲーム前に、ピッチにて献血協力の依頼をサポーターに向けて呼びかける。
	二十歳の献血街頭広報	継続	成人者(二十歳)	1月	1	献血に関する展示ブースを成人式会場に設け、新成人に献血を理解していただくための啓発を行う。
	クリスマス献血キャンペーン	継続	学推協・地域住民	12月	1	運営は学生献血推進協議会が実施し、参加学生が献血の啓発とともに自ら献血を実施する。また、赤十字事業の紹介や体験をしていただいたり、出店や舞台でのイベントを実施し、地域住民の参加や献血を行う。
その他の目標値 参加者100名	親子けんけつ教室	継続	小学生親子	8月	2	献血の現場や九州BBCを見学し、献血の必要性を理解していただき、将来の献血者を確保する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーターロゴマーク100社配布	献血者安定確保	継続	献血協力企業(団体)	通年	週1回	地方紙の夕刊に週1回献血協力団体へお礼のメッセージを掲載する。協力事業所の社会貢献PRにもなるため、海外による協力依頼にも有効である。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

大分県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規会員100名増 複数回献血者660名増	広報誌発行	継続	会員・年1回献血者	6・9・12・3月	4	広報誌を年4回発行し、会員はもとより、年1回の献血者へも広報誌を送付し、献血の現状を理解いただき、2回・3回の献血協力へ導く。
	会員募集	継続	献血者	通年	—	QRコード入りの募集チラシを献血者へ配布する。
	献血協力依頼	継続	既献血者	通年	—	同献血会場での過去3年の献血者へ、DMIによる献血依頼を実施する。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
採血バス1車当たり400mL献血者50.5人確保(H24:49人)	LC献血セミナー及び研修会	継続	LC会員	7月・11月	2	県内35LC献血の推進拡大、会員も献血知識向上や更なる献血の重要性の理解を図るため、セミナー(110名参加)の開催及び九州BBC(40名参加)の視察等を実施し、LC協力献血での献血者を増やしていただく。
採血バス1車当たり400mL献血者50.5人確保(H24:50人)	献血者安定確保キャンペーン	継続	移動採血バス献血者	通年	5	年間5回(各1ヶ月)献血者安定確保キャンペーン(処遇品のプラスワン)を実施する。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

宮崎県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2,700人 6.2%	高校集団献血	継続	高校生	5月～1月	20回	各高校	高校における集団献血の実施
	大学集団献血	継続	大学生	4月～12月	20回	各大学	大学における集団献血の実施
	専門学校集団献血	継続	専門学校生	4月～12月	10回	各専門学校	専門学校における集団献血
20代の献血者及び献血率の目標値 8,815人 8.8%	大学集団献血	継続	大学生	4月～12月	20回	各大学	大学における集団献血の実施
	専門学校集団献血	継続	専門学校生	4月～12月	10回	各専門学校	専門学校における集団献血
その他の目標値 1,000人 (献血ふれあい事業600人) (献血セミナー400人)	献血ふれあい事業	継続	小中学生・保護者	7月～2月	15回	各学校・献血会場・献血ルーム	小学校・中学校等に出向いての献血車・血液運搬車の見学会や献血会場での献血クイズやDVD上映、献血ルーム見学会など。
	献血セミナー	継続	中学性・高校生	7月～2月	10回	各学校・献血ルーム	中学校や高校に出向いての献血セミナーの開催、献血ルームの見学会など。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所
400mL献血者 1,200人	町・超ぐるみ献血参加運動	継続		4月～3月	20回	市町村・公民館等

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 11,000人	ハガキ要請	継続	献血者	通年	50回	街頭献血やイベント献血の際にご協力をいただいた献血者に同会場での献血実施の際にハガキ要請を行う。
	献血ありがとう(ポイントカード)	継続	献血者	通年		献血ルームの献血者を対象にポイントカード(5回献血)で特別記念品をプレゼント。

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
PCHLA登録者 200人	PCHLA登録者募集	継続	血小板成分献血者	通年		献血ルームでの血小板成分献血者を対象にPCHLA登録の推進を図る。

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

鹿児島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.1%	ヴォーカリストオーディション	継続	オーディション参加希望者	6月、7月、8月	3	研修ホール	地元ラジオ局とのタイアップにより、ヴォーカルオーディション参加者へ献血推進を行う。
	高校出前講座	継続	17歳以上高校生	4月～3月	30	各学校	17歳～18歳学生を対象とした出前講座を実施し、献血に対する理解を深めていただく。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.6%	ヴォーカリストオーディション	継続	オーディション参加希望者	6月、7月、8月	3	研修ホール	地元ラジオ局とのタイアップにより、ヴォーカルオーディション参加者へ献血推進を行う。
その他の目標値 ・360名 ・70名	キッズ献血	継続	小学生高学年及びその保護者	8月	2	血液センター他	小学生に献血を模擬体験してもらうことで献血の重要性といのちの大切さを学んでもらう。
	職場体験学習	継続	中学生	5月、7月、10月、1月、2月	10	血液センター、献血ルーム	献血可能年齢を目前に控えた中学生へいのちの大切さや献血の重要性について学んでもらう。将来の献血への動機づけを行う。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
60名	各団体・事業所献血担当者研修会	新規・継続	各団体・事業所献血担当者	未定	3	未定	各団体及び事業所の献血担当者へ献血に関する研修会へ参加していただき献血推進を強化していただく。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

鹿児島県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の目標値 360名	抽選会	継続	複数回献血クラブ会員	献血者減少月(11～)	6	複数回献血クラブ会員に対しイベント(抽選会)を実施する。なお、血液不足時とする。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
参加者各15名	母体 午後の献血イベント	継続	固定施設献血者	4ヶ月おき	3	午後の献血者が少ないことに伴い、午後のイベントを実施する。	
当日1稼働50名	献血ルーム めっちゃ抹茶DAY	継続	固定施設献血者	10月～3月	24	ホリスティックヘルスのお茶講座を用いた血小板・400mL献血者確保	
当日1稼働50名	献血ルーム血小板 400献血感謝DAY	継続	固定施設献血者	10月～3月	12	ネイル・ハンドマッサージを用いた献血者確保	
当日1稼働50名	新春お零の初音 コンサート	継続	固定施設献血者	1月	2	献血者を招待しコンサートを実施することで、複数回献血者の増加を目的とする。	
当日1稼働70名	HHPかごしま X'masコンサート	継続	固定施設献血者	12月	1	献血者を招待しコンサートを実施することで、複数回献血者の増加を目的とする。	

平成25年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

沖縄県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血率 6.2%	高校献血教室	継続	高校生	通年	37	県内各高校	生徒、教職員および保護者対象の献血セミナー。献血基礎知識、受血者体験談、DVDの上映等。
	就業体験受入	継続	高校生	通年	15	沖縄県血液センター	就業体験の積極的な受け入れ。
	高校献血実施	継続	高校生	通年	40	各高等学校	各高校における献血の実施。17歳男子400ml献血の推進。
	大学、専門 献血実施	継続	大学生、専門学校生	通年	80	県内各大学、専門学校	各学校における献血の実施。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血率 8.2%	大学、専門 献血教室	継続	大学生、専門学校生	通年	15	県内各大学、専門学校	学生対象の献血セミナー。献血基礎知識、受血者体験談、DVDの上映、学生ボランティア呼び掛け等。
	大学、専門 献血実施	継続	大学生、専門学校生	通年	80	県内各大学、専門学校	各学校における献血の実施。学推協の呼び掛け協力。
小・中学校献血教室を3回以上 就業体験受入を5校以上	小、中献血教室	継続	小、中学生	通年	3	県内各小中学校	生徒、教職員および保護者対象の献血セミナー。献血基礎知識、受血者体験談、DVDの上映等。
	就業体験受入	継続	中学生	通年	5	沖縄県血液センター	就業体験の積極的な受け入れ。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血団体 20	新規献血団体訪問及び献血実施	継続	献血未実施団体	通年	30	各事業所	献血未実施団体を訪問し、献血への理解、実施協力を依頼する。
休眠献血団体 10	休眠献血団体訪問及び献血実施	継続	3年以上献血休眠団体	通年	15	各事業所	献血実施が3年以上途絶えている団体を訪問し、献血への理解、実施協力を依頼する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

沖縄県赤十字血液センター

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
3,800名	複数回献血協力者確保	継続	登録者	平成25年4月～3月	6回以上	年間を通し、緊急時、不足時及び夏場、冬場の血液不足の時期にメール等で協力依頼する。	

エ. その他

平成25年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
840名(月70名登録目標)	複数回クラブ会員勧誘強化	継続	男64才、女性54才迄	4月・7月・10月・1月	4回	統一システムより、男性64才、女性54才迄の方で、50kg以上の献血可能な未登録者を対象に3ヵ月ごとに封書にて勧誘依頼する。移動場所、ルームでも常時配布	

平成25年度の血液製剤の安定供給に関する計画（案）
について

・ 諮問書	1
・ 平成25年度の血液製剤の安定供給に関する計画（需給計画）（案）	2
・ 平成25年度に配分される原料血漿の標準価格の考え方	9

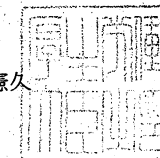
<参考>

・ 平成25年度需要見込関連表	14
・ 血漿分画製剤の自給率の推移（年度：供給量ベース）	15
・ 主な血漿分画製剤の自給率の推移（年度：供給量ベース）	16
・ 原料血漿確保実績（H22年4月～25年1月）	17
・ 原料血漿価格（日米）の推移	18
・ アルブミン製剤の供給量（遺伝子組換え型含む）と自給率	19
・ 免疫グロブリン製剤の供給量と自給率	20
・ 血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給量（遺伝子組換え型含む）と国内血漿 由来製剤の割合	21
・ 需給計画の状況（平成23年度～平成25年度）	22

厚生労働省発薬食0227第73号
平成25年2月27日

薬事・食品衛生審議会会長
西島正弘 殿

厚生労働大臣 田村 憲久



諮 問 書

平成25年度の血液製剤の安定供給に関する計画を定めることについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第25条第5項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

平成25年度の血液製剤の安定供給に関する計画（需給計画）（案）

平成 年 月 日
厚生労働省告示第 号

本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（以下「法」という。）第3条に規定する基本理念に基づき、血液製剤（法第25条第1項に規定する血液製剤をいう。以下同じ。）の安定供給を確保することを目的とするものである。

これにより、血液製剤の需要と供給等の動向を把握し、本計画に沿った製造、輸入等が行われることを確実なものとするとともに、供給等の実績をきめ細かく把握し、適時、適切に対応できる体制を構築するものとする。

なお、本計画において、次の各号に掲げる血液製剤は、それぞれ当該各号に定めるものとする。

- 1 アルブミン 加熱人血漿たん白、人血清アルブミン及び遺伝子組換え型人血清アルブミン
- 2 組織接着剤 フィブリノゲン加第XⅢ因子及びフィブリノゲン配合剤
- 3 血液凝固第Ⅷ因子 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子及び遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子
- 4 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子 乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体（国内で製造されるものに限る。）、乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子及び遺伝子組換え型血液凝固第Ⅸ因子
- 5 インヒビター製剤 乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体（輸入されるものに限る。）、活性化プロトロンビン複合体、乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体及び遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子
- 6 トロンビン トロンビン（人由来のものに限る。）
- 7 人免疫グロブリン 人免疫グロブリン、乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン、乾燥スルホ化人免疫グロブリン、pH4 処理酸性人免疫グロブリン、乾燥 pH4 処理人免疫グロブリン、乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン、ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン及び乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン
- 8 抗HBs人免疫グロブリン 抗HBs人免疫グロブリン、乾燥抗HBs人免疫グロブリン、ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン及び乾燥ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン
- 9 抗破傷風人免疫グロブリン 抗破傷風人免疫グロブリン、乾燥抗破傷風人免疫グロブリン、ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン及び乾燥ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン

第1 平成25年度に必要と見込まれる血液製剤の種類及び量

平成25年度において必要と見込まれる血液製剤の種類及び量は、血液製剤の製造販売業者等（製造販売業者及び製造業者をいう。以下同じ。）における供給見込量等を基に別表第1のとおりとする。

第2 平成25年度に国内において製造され、又は輸入されるべき血液製剤の種類及び量の目標

第1及び血液製剤の製造販売業者等における血液製剤の製造又は輸入の見込量を踏まえ、平成25年度に国内において製造され、又は輸入されるべき血液製剤の種類及び量の目標は、別表第2のとおりとする。

第3 平成25年度に確保されるべき原料血漿の量の目標

第2を踏まえ、平成25年度に確保されるべき原料血漿の量の目標は、92万リットルとする。

第4 平成25年度に原料血漿から製造されるべき血液製剤の種類及び量の目標

平成25年度に原料血漿から製造されるべき血液製剤の種類及び量の目標は、別表第3のとおりとする。

第5 その他原料血漿の有効利用に関する重要事項

1 原料血漿の配分

倫理性、国際的公平性等の観点に立脚し、国内で使用される血液製剤が、原則として国内で採取された血液を原料として製造され、海外の血液に依存しなくても済む体制を構築すべきである。このため、国内で採取された血液を有効に利用し、第4に掲げる種類及び量の血液製剤の製造等により、その血液が血液製剤として安定的に供給されるよう、採血事業者が原料血漿を血液製剤の製造販売業者等に配分する際の標準価格及び配分量を次のとおり規定する。

- 1 原料血漿の標準価格は、(1)から(2)までに掲げる原料血漿の種類ごとに、それぞれ(1)から(2)までに定めるとおりとする。

(1) 凝固因子製剤用	10,640円/L
(2) その他の分画用	9,720円/L

- 2 血液製剤の製造販売業者等に配分する原料血漿の種類及び見込量は、それぞれ(1)から(3)までに定めるとおりとする。

(1) 一般財団法人化学及血清療法研究所	
イ 凝固因子製剤用	19.0万L
ロ その他の分画用	14.0万L
(2) 日本製薬株式会社	
イ その他の分画用	13.5万L
(3) 一般社団法人日本血液製剤機構	
イ 凝固因子製剤用	35.8万L
ロ その他の分画用	9.7万L

(注)

- 1 「凝固因子製剤用」とは、採血後6時間又は8時間以内に凍結させた原料血漿であって、血液凝固第Ⅷ因子を含むすべての血漿分画製剤を作ることができるものをいう。
- 2 「その他の分画用」とは、採血後6時間又は8時間以上経過した後に凍結させた原料血漿であって、血液凝固第Ⅷ因子以外の血漿分画製剤を作ることができるものをいう。

2 血液製剤の安定供給の確保のために望ましい在庫について

平成13年3月に、遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子の出荷一時停止等の問題が生じたことを踏まえ、このような緊急事態に対応できるよう製造販売業者等は一定量の在庫を保有することが望ましい。

別表第1 平成25年度に必要と見込まれる血液製剤の種類及び量

血液製剤の種類	換算規格	需要見込量
アルブミン	25% 50ml 1瓶	3,028,200
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	6,500
組織接着剤	cm ²	12,492,100
血液凝固第Ⅷ因子	1000単位 1瓶	506,500
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	1000単位 1瓶	89,000
インヒビター製剤	延人数	25,000
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	1瓶	117,100
トロンビン	10000単位 1瓶	17,200
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,800,700
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	17,600
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍 1瓶	、11,300
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	67,600
乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	500単位 1瓶	430,000
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	200
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	40,000
乾燥濃縮人CI-インアクチベーター	1瓶	1,400

(注) 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位(換算規格)に換算したうえ、四捨五入により100の整数倍で表示した。

別表第2 平成25年度に製造・輸入されるべき血液製剤の種類及び量

血液製剤の種類	換算規格	製造・輸入目標量				24年度末 在庫量(見込)	供給可能量
		国内血漿由来	輸入血漿由来	遺伝子組換え	計		
アルブミン	25% 50ml 1瓶	1,835,700	1,235,200	—	3,070,900	703,700	3,774,600
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	7,500	0	—	7,500	1,800	9,300
組織接着剤	cm ²	6,320,000	7,238,400	—	13,558,400	2,119,100	15,677,500
血液凝固第Ⅷ因子	1000単位 1瓶	90,700	0	418,000	508,700	215,000	723,700
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	1000単位 1瓶	45,600	0	50,700	96,300	40,100	136,400
インヒビター製剤	延人数	0	5,100	18,400	23,500	10,900	34,400
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	1瓶	0	132,000	—	132,000	28,500	160,500
トロンビン	10000単位 1瓶	12,600	0	—	12,600	19,200	31,800
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,769,900	86,200	—	1,856,100	403,500	2,259,600
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	400	14,800	—	15,200	12,600	27,800
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍 1瓶	0	14,300	—	14,300	8,600	22,900
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	0	61,800	—	61,800	29,600	91,400
乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	500単位 1瓶	439,000	0	—	439,000	109,300	548,300
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	0	0	—	0	300	300
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	46,400	0	—	46,400	6,800	53,200
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	1瓶	0	800	—	800	1,300	2,100

(注1)数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位(換算規格)に換算したうえ、四捨五入により100の整数倍で表示した。
(注2)「24年度末在庫量(見込)」及び「供給可能量」の表は、参考である。

別表第3 平成25年度に原料血漿から製造されるべき血液製剤の種類及び量

血液製剤の種類	換算規格	製造目標量
アルブミン	25% 50ml 1瓶	1,835,700
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	7,500
組織接着剤	cm ²	6,320,000
血液凝固第Ⅷ因子	1000単位 1瓶	90,700
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	1000単位 1瓶	45,600
インヒビター製剤	延人数	0
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	1瓶	0
トロンビン	10000単位 1瓶	12,600
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,769,900
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	400
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍 1瓶	0
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	0
乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	500単位 1瓶	439,000
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	0
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	46,400
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	1瓶	0

(注)数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位(換算規格)に換算したうえ、四捨五入により100の整数倍で表示した。

血漿分画製剤の分類内訳表

種 類	内 訳
アルブミン	加熱人血漿たん白 人血清アルブミン 遺伝子組換え型人血清アルブミン
乾燥人フィブリノゲン	乾燥人フィブリノゲン
組織接着剤	フィブリノゲン加第Ⅷ因子 フィブリノゲン配合剤
血液凝固第Ⅷ因子(遺伝子組換え型含む)	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子(複合体及び遺伝子組換え型含む)	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体(国内製剤) 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子 遺伝子組換え型血液凝固第Ⅸ因子
インヒビター製剤	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体(輸入製剤) 活性化プロトロンビン複合体 乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体 遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅸ因子
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子
トロンビン(人由来)	トロンビン(人由来)
人免疫グロブリン	人免疫グロブリン 乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン 乾燥スルホ化人免疫グロブリン pH4処理酸性人免疫グロブリン 乾燥pH4処理人免疫グロブリン 乾燥ヘプシン処理人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン 乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン
抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン 乾燥抗HBs人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン 乾燥ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン
抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン 乾燥抗破傷風人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン 乾燥ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン
乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ
乾燥濃縮人活性化プロテインC	乾燥濃縮人活性化プロテインC
人ハプトグロビン	人ハプトグロビン
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	乾燥濃縮人C1-インアクチベーター

(注)安全な血液製剤の安定供給等の確保に関する法律施行規則に掲げる需給計画の対象となる血液製剤をその適応により分類した。

平成25年度に配分される原料血漿の標準価格の考え方

<基本的考え方>

日本赤十字社では輸血用血液の確保と原料血漿の確保が並行して行われているが、人員をはじめ施設、装置等は兼用されている。このため、これらを明確に切り分けることは困難であるが、採血関連業務の中で、原料血漿の確保のために必要と考えられる部分について費用を積算し、原料血漿の価格を計算する。【原価計算方式】

○血漿成分採血は、必要経費を積算。但し、献血全般に共通する事項や他の献血者にも同様に広く行われるサービスに係る経費を除く。

○全血採血及び血小板成分採血は、主として、赤血球製剤及び血小板製剤を製造するために行われることから、原料血漿の確保に係る費用の一部に限定して積算。但し、赤血球製剤の白血球除去の導入に伴い原料血漿の製造に生じた費用は含むもの。

1 凝固因子製剤用

(1) 原料血漿の配分量

配分量は、確保目標量と同量の92万リットル(A)とする。

(2) 価格の算定方法

原料血漿92万リットルの確保から供給までに必要な経費を積み上げ、この必要経費の総額を92万で除し、5%の消費税を加えて1リットルの単価(B)とする。

(3) 算定の根拠

日本赤十字社が提出したデータを使用することとし、材料費等(材料費、人件費、経費、管理供給費)の単価(C)については直近の実績である平成22年度及び23年度の平均を使用する。

(4) 採血方法別の原料血漿の配分量

各採血方法別の確保量の割合で92万リットルを按分し配分量(D)とする。確保量の割合は、平成25年度献血推進計画(案)に則り日本赤十字社が策定した平成25年度の事業計画(案)とした。

$$\text{計算式: } B = \sum (C_n \times D_n) / A \times 1.05 \quad (10円未満切り上げ)$$

(nは採血方法を示す。)

2 その他の分画用

血液凝固第Ⅷ因子製剤が製造できない点を考慮して、凝固因子製剤用から所要額を割り引くものとするため、前年度価格に凝固因子製剤用原料血漿の価格改定率を乗じ新価格とする。(10円未満切り上げ)

積算する費用（凝固因子製剤用）

経 費	採 血 種 別		
	全血（200 及び 400）	血小板成分	血 漿 成 分
材料費	一部 （シグナルパック代相当、製品表示ラベル代）		全額 （採血キット、薬品費、 止血・消毒用消耗品 検査用試薬、製品表示ラベル等）
人件費	原料血漿の凍結・一時保管費（製剤職員費）		
			医師（検診）看護師（検診・採血 検査職員（生化学等検査） 事務職員（受付・応対）
経 費	<製造>機器等保守料・減価償却費及び光熱水料（凍結・保管費）		
	白血球除去の導入に伴い生じた経費（減価償却費、リース料等）		登録者依頼経費、処遇費（記念品） <採血>：装置借料、減価償却、保守 <検査>：検体送料、光熱水料 機器保守、減価償却
管理供給費	原料血漿輸送・貯留保管経費		

材料費
全血採血及び血小板成分採血については、原料血漿として分離後の凍結・一時保管に関するもの等を積算する。血漿成分採血は全額を積算。

人件費
全ての採血種別で原料血漿の凍結に要する費用を積算する。
血漿成分採血では献血者に対応する医師、看護師及び事務職員の人件費並びに血液検査の実施に係る人件費も積算する。

経費
全血採血及び血小板成分採血については、原料血漿として分離後の凍結・一時保管に関するものを積算する。血漿成分採血では、成分献血登録者に対する献血依頼経費、献血者に対する処遇費、採血、検査、製造（凍結）に関する経費も含めて積算する。
全血採血において、白血球除去の導入に伴い、原料血漿の製造に生じた経費（減価償却費、リース料等）も積算する。

管理供給費
原料血漿の搬送・貯留保管に要する経費を積算する。

1. 一採血当たりの経費負担額		負担する費用				負担の区分	
材料費	区分	全血200	全血400	血小板成分	血漿成分	血漿成分	血漿成分
材料費	区分	223.42 円	273.14 円	271.73 円	7596.16 円	7596.16 円	血漿成分採血のみ " "
	区分	15.57 円	29.48 円	25.98 円	3698.77 円	3698.77 円	血漿成分採血のみ " "
人件費	区分	50.86 円	97.61 円	89.12 円	8334.29 円	8334.29 円	血漿成分採血のみ " "
	区分	150.48 円	288.42 円	263.34 円	564.30 円	564.30 円	血漿成分採血のみ " "
管理供給費	区分	440.33 円	688.65 円	650.17 円	20193.52 円	20193.52 円	血漿成分採血のみ " "
	区分	0.116 円	0.236 円	0.210 円	0.450 円	0.450 円	血漿成分採血のみ " "
計		3795.95 円	2918.01 円	3096.05 円	44874.49 円	44874.49 円	血漿成分採血のみ " "
1採血当たりの原料血漿量		0.116 1/2	0.236 1/2	0.210 1/2	0.450 1/2	0.450 1/2	血漿成分採血のみ " "
合計(1リットル当たり単価)①		3795.95 円	2918.01 円	3096.05 円	44874.49 円	44874.49 円	血漿成分採血のみ " "
2. 凝固因子製剤用原料血漿価格の計算	原料血漿確保見込量 ②	30.084 1/2	562.580 1/2	158.976 1/2	168.360 1/2	168.360 1/2	血漿成分採血のみ " "
	確保費用総計 ③	114,197,360 円	1,641,614,066 円	492,197,645 円	7,555,069,136 円	7,555,069,136 円	血漿成分採血のみ " "
原料血漿確保保目標量 ④	原料血漿確保保目標量 ④	9,803,078,207 円	9,803,078,207 円	9,803,078,207 円	9,803,078,207 円	9,803,078,207 円	血漿成分採血のみ " "
	原料血漿確保保目標量 ④	92万リットル	92万リットル	92万リットル	92万リットル	92万リットル	血漿成分採血のみ " "
原料血漿価格 ⑤/④×105%	原料血漿価格 ⑤/④×105%	11,188 円/リットル	11,188 円/リットル	11,188 円/リットル	11,188 円/リットル	11,188 円/リットル	血漿成分採血のみ " "
	原料血漿価格 ⑤/④×105%	11,188 円/リットル	11,188 円/リットル	11,188 円/リットル	11,188 円/リットル	11,188 円/リットル	血漿成分採血のみ " "

原料血漿確保保目標量: 92万リットル

2. 凝固因子製剤用原料血漿価格の計算

原料血漿確保保目標量 ② 30.084 1/2 562.580 1/2 158.976 1/2 168.360 1/2

確保費用総計 ③ 114,197,360 円 1,641,614,066 円 492,197,645 円 7,555,069,136 円

原料血漿確保保目標量 ④ 9,803,078,207 円 9,803,078,207 円 9,803,078,207 円 9,803,078,207 円

原料血漿確保保目標量 ④ 92万リットル 92万リットル 92万リットル 92万リットル

原料血漿価格 ⑤/④×105% 11,188 円/リットル 11,188 円/リットル 11,188 円/リットル 11,188 円/リットル

3. その他の分面用原料血漿価格の計算

平成24年度原 凝固因子製 10,570円 × 11,190円/11,570円 = 10,222.84円 → 10,230円/リットル

価計算方式に 利用血漿価 10,230円/リットル

基づく価格 格変動割合

平成25年度原料血漿価格（案）について

I 従来の原価計算方式に基づく価格（括弧書は平成24年度価格）

- 凝固因子製剤用 11, 190円/L (11, 570円/L)
- その他の分画製剤用 10, 230円/L (10, 570円/L)

II 原料血漿価格に関する議論等について

血漿分画製剤の供給のあり方に関する検討会最終報告書（抜粋）（H24.3.6公表）

第4 提言

- (1) ~ (2) (略)
- (3) 輸血用を含めた血液製剤全般のコスト構造のあり方について

① (略)

②アルブミン製剤など血漿分画製剤の価格等について

アルブミン製剤の国内自給率が低下している要因として、原料血漿価格を含む製造コストが高いことなどが考えられる。今後、国は、血液事業の運営に支障を来さないように配慮しつつ、原料血漿価格についても適正な価格の調整を考えていくべきである。（以下略）

- (4) ~ (9) (略)

III 調整案

IIを踏まえ、血液事業の運営に支障を来さないよう、Iにより算出した価格の△5%とする。（括弧書は平成24年度標準価格）

- 凝固因子製剤用 10, 640円/L (11, 000円/L)
- その他の分画製剤用 9, 720円/L (10, 050円/L)

※ 米国の原料血漿価格 10, 853円/L（平成23年）

日本赤十字社血液事業本部

日本赤十字社事業計画に基づく原料血漿の採血方法別確保目標量について

日本赤十字社は、平成25年度の献血の推進に関する計画における目標量に則り、全血採血で約144万リットル、成分採血で約61万リットル、合計で約205万リットルの血液確保計画を作成し、当該年度に必要な92万リットルの原料血漿を確保することとしております。

献血の推進に関する計画（案）

採血方法	全血献血		成分献血		合 計
	200mL	400mL	血小 板	血 漿	
血液量(L)	72,769	1,364,634	349,091	267,686	2,054,180
輸血用血液量	33,566	696,058	170,003	93,379	993,006
原料血漿確保量	30,084	562,580	158,976	168,360	920,000
検査等・減損等	9,119	105,996	20,112	5,947	141,174



-日本赤十字社の事業計画について-

全国の輸血用血液製剤の需要動向を踏まえて、採血方法別の必要血液量を算出します。
当該年度の原料血漿確保目標量（92万L）については、輸血用血液として使用しない血漿と血漿成分献血で確保する計画としております。

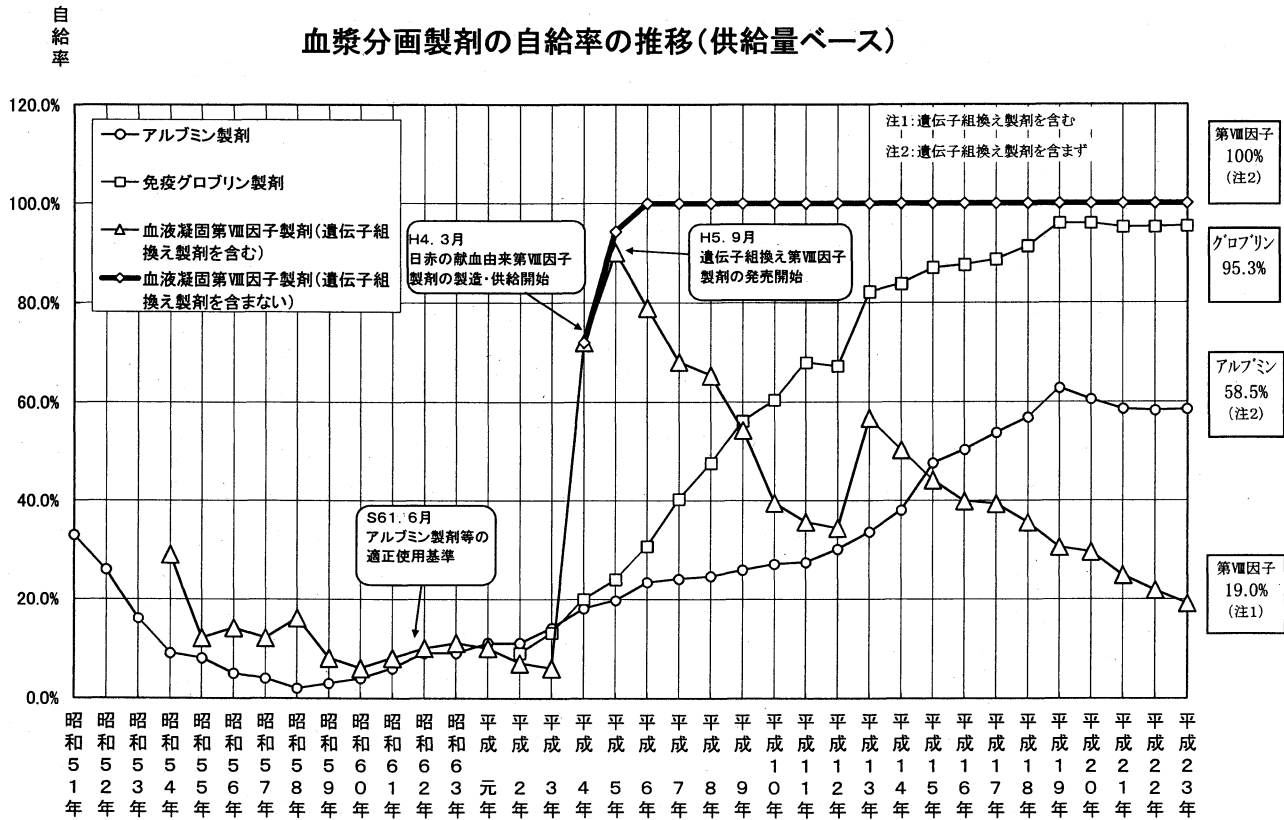
日本赤十字社事業計画（案）における血液量

採血方法	全血献血		成分献血		合 計
	200mL	400mL	血小 板	血 漿	
血液量(L)	72,769	1,364,634	349,091	267,686	2,054,180
輸血用血液量	33,566	696,058	170,003	93,379	993,006
原料血漿確保量	30,084	562,580	158,976	168,360	920,000
検査等・減損等	9,119	105,996	20,112	5,947	141,174

平成25年度需要見込関連表

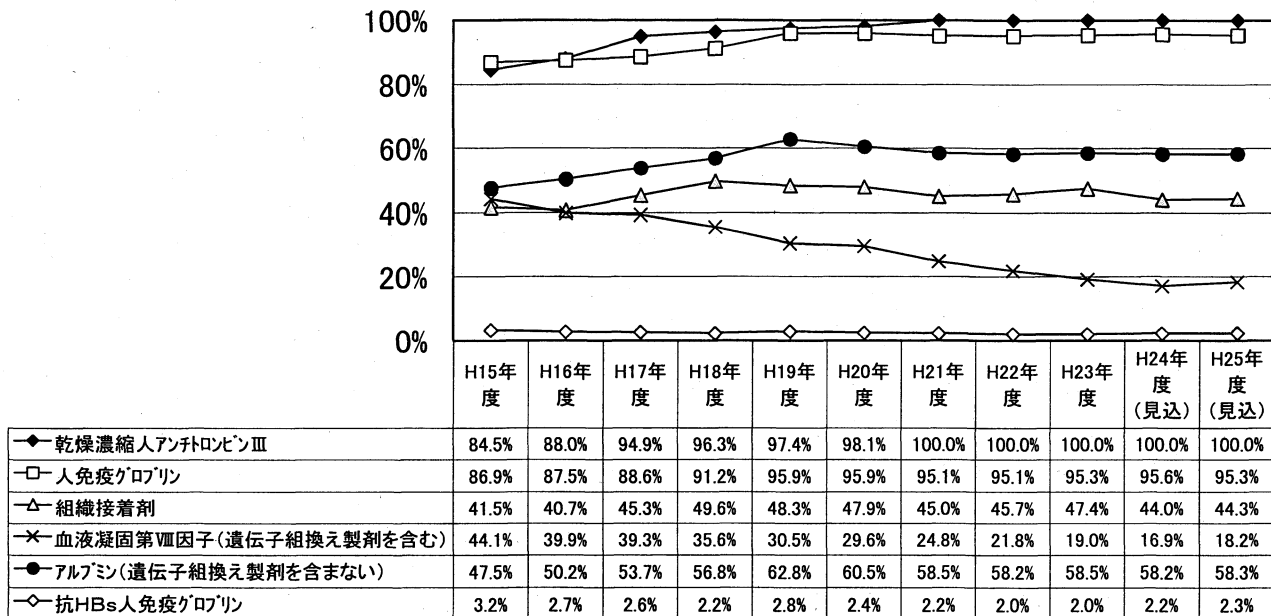
種 類	換算規格	A	B	C	D=B+C	E	F=D-E	G
		H24年度 供給見込(※)	H24年度末 在庫見込	H25年度製造 輸入見込量	H25年度 供給可能量	H25年度 需要見込量	H25年度末 在庫見込量	在庫量 (ヶ月分)
アルブミン	25% 50ml 1瓶	2,992,000	703,700	3,070,900	3,774,600	3,028,200	746,400	3.0
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	6,600	1,800	7,500	9,300	6,500	2,800	5.2
組織接着剤	Cm ³	12,095,600	2,119,100	13,558,400	15,677,500	12,492,100	3,185,400	3.1
血液凝固第Ⅷ因子(遺伝子組換え型含む)	1000単位 1瓶	524,900	215,000	508,700	723,700	506,500	217,200	5.1
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子(複合体含む)	1000単位 1瓶	76,200	40,100	96,300	136,400	89,000	47,400	6.4
インヒビター製剤	延人数	27,300	10,900	23,500	34,400	25,000	9,400	4.5
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	1瓶	134,700	28,500	132,000	160,500	117,100	43,400	4.4
トロンビン(人由来)	10000単位 1瓶	20,900	19,200	12,600	31,800	17,200	14,600	10.2
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,786,400	403,500	1,856,100	2,259,600	1,800,700	458,900	3.1
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	17,800	12,600	15,200	27,800	17,600	10,200	7.0
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍 1瓶	12,500	8,600	14,300	22,900	11,300	11,600	12.3
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	62,700	29,600	61,800	91,400	67,600	23,800	4.2
乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	500単位 1瓶	447,000	109,300	439,000	548,300	430,000	118,300	3.3
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	400	300	0	300	200	100	6.0
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	45,000	6,800	46,400	53,200	40,000	13,200	4.0
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	1瓶	1,700	1,300	800	2,100	1,400	700	6.0

※平成24年4月～12月供給実績値より算出(×12月/9月)



注) 平成9年以前は年次、平成10年以降は年度

主な血漿分画製剤の自給率の推移(年度・供給量ベース)



※ H24年度(見込)は、平成24年4～12月の供給実績値より算出(×12月/9月)

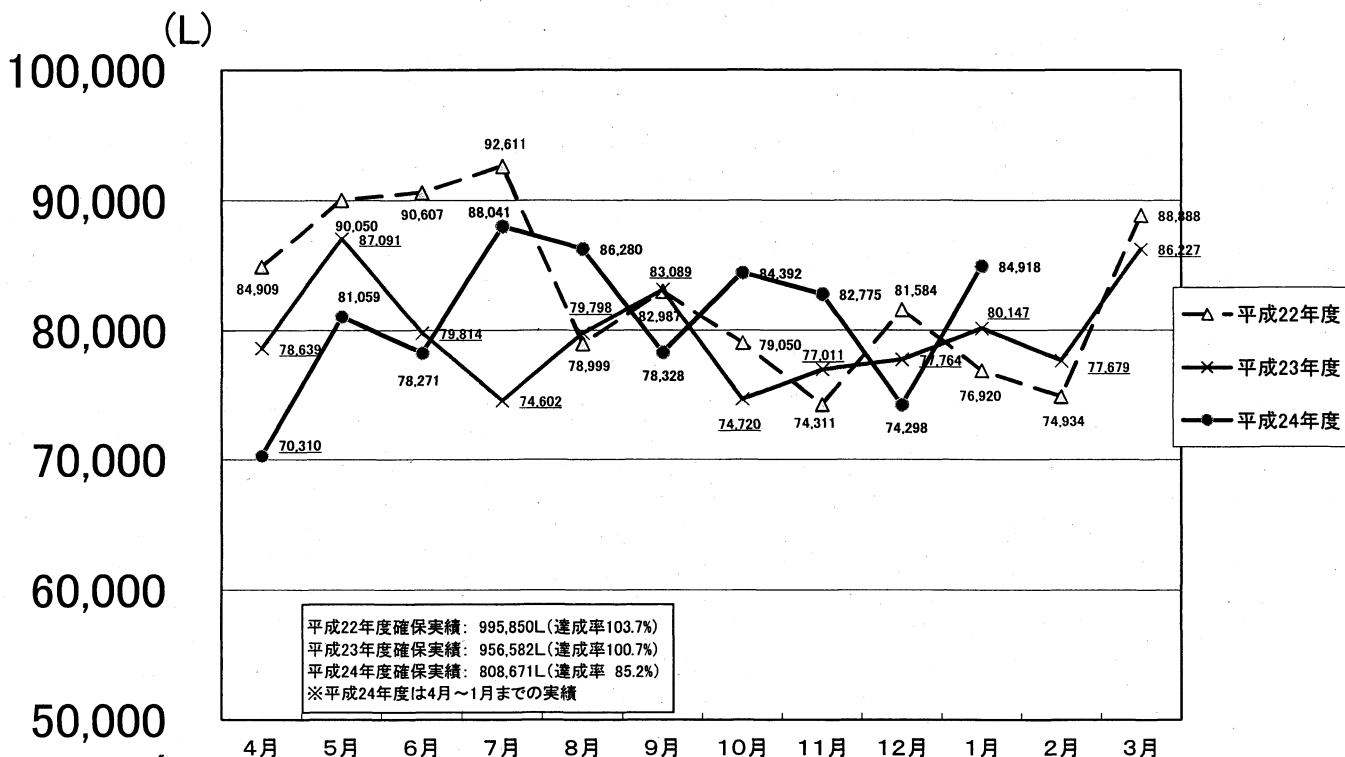
自給率100%のもの

乾燥人フィブリゲン、血液凝固第VIII因子(血液由来に限る)、乾燥濃縮人血液凝固第IX因子(複合体含む、血液由来に限る)、トロンビン、乾燥濃縮人活性化プロテインC、人ハプトグロビン、乾燥濃縮人アンチロトニンIII

自給率0%のもの

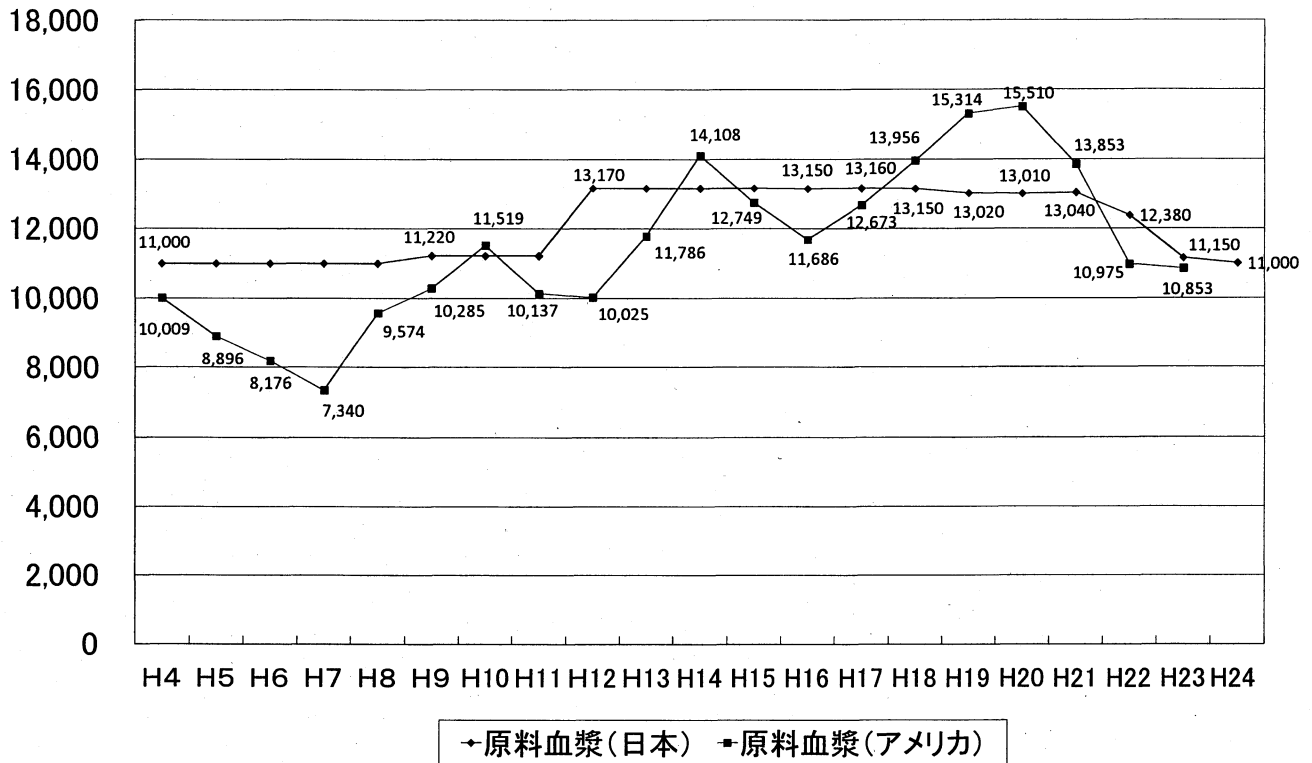
インヒビター製剤、乾燥濃縮血液凝固第XIII因子、乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン、抗破傷風人免疫グロブリン、乾燥濃縮人C1ーインアクチベーター

原料血漿確保実績(平成22年4月～平成25年1月)



円/L

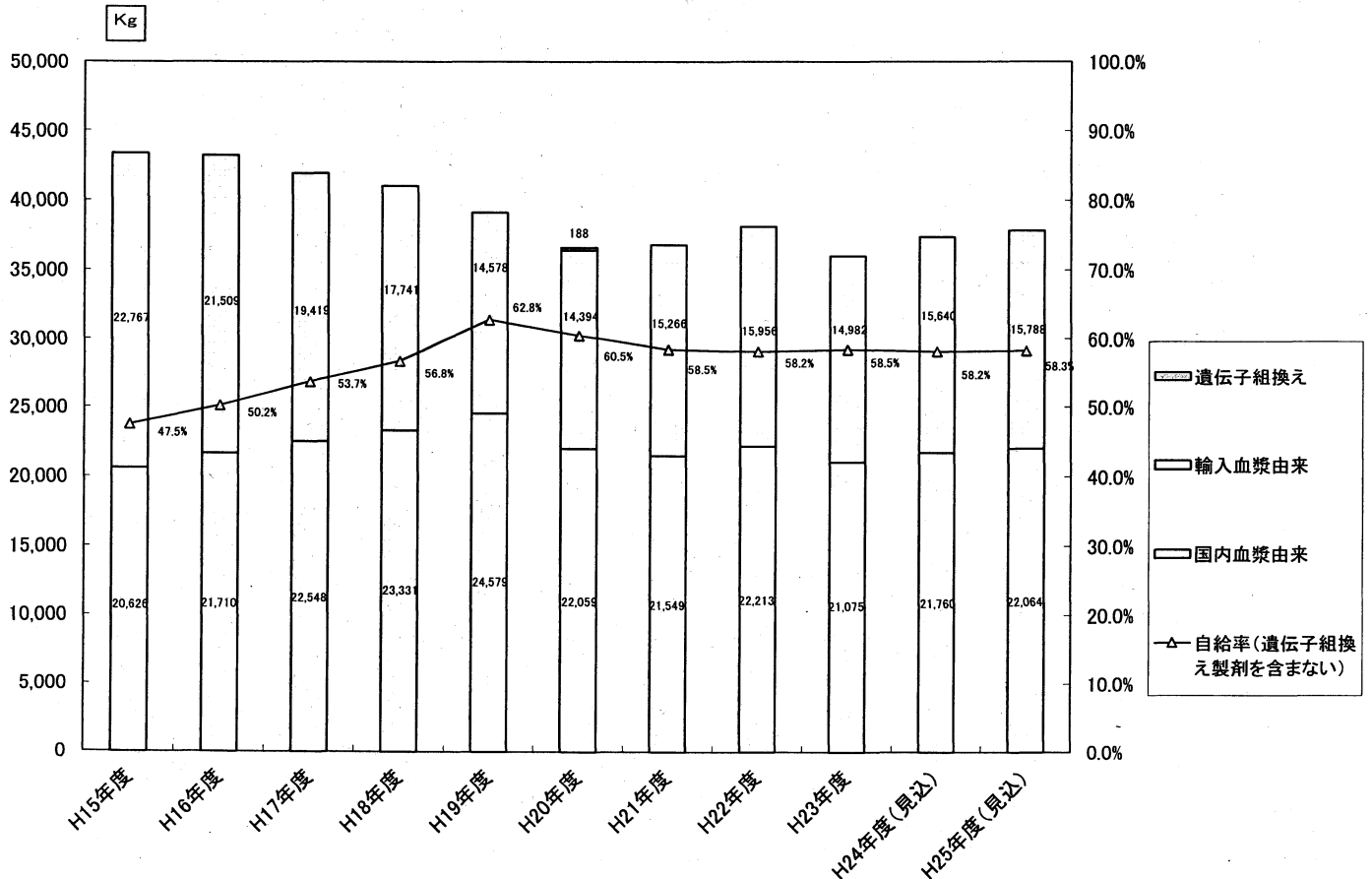
原料血漿価格(日米)の推移



	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
米国の原料血漿価格(ドル)	79	80	80	78	88	85	88	89	93	97	112.5	110	108	115	120	130	150	148	125	136
為替レート(円/ドル)	126.7	111.2	102.2	94.1	108.8	121.0	130.9	113.9	107.8	121.5	125.4	115.9	108.2	110.2	116.3	117.8	103.4	93.6	87.8	79.8

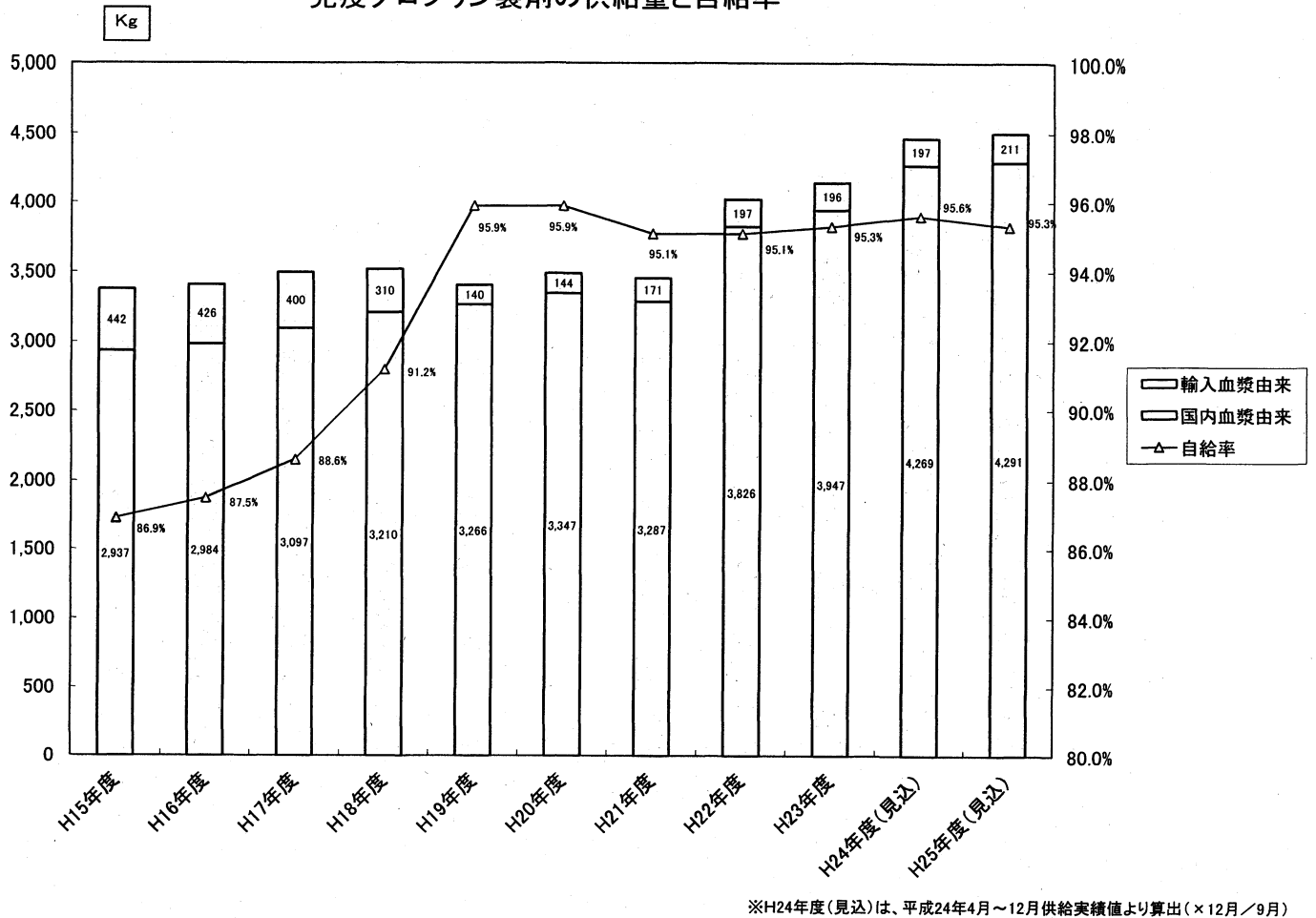
米国における原料血漿価格はThe Plasma Fractions Markets in the United States (The Marketing Research Bureau Inc)より
為替レートはIMF World Economic Outlook の指標を使用。

アルブミン製剤の供給量(遺伝子組換え型含む)と自給率

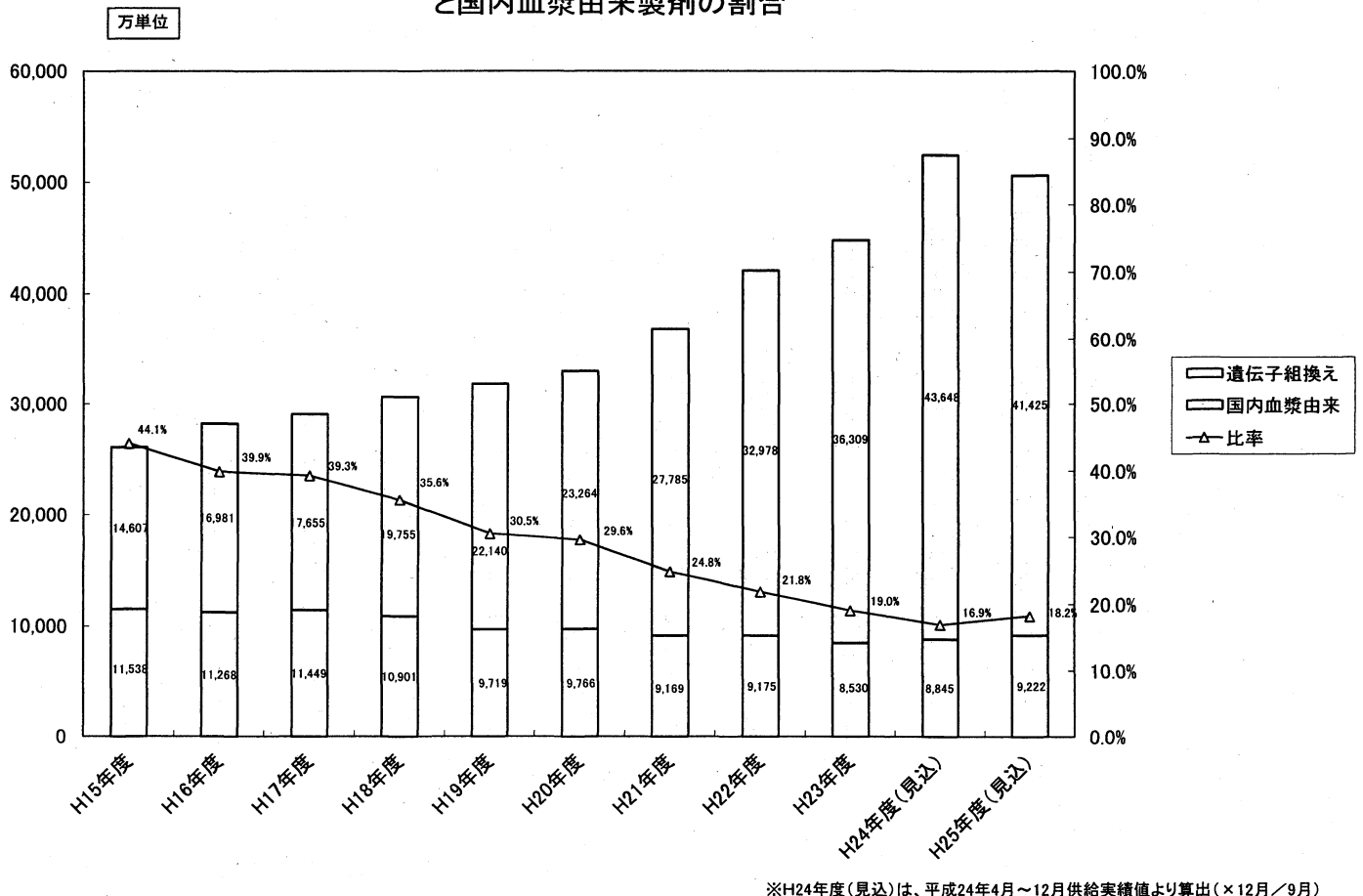


※H24年度(見込)は、平成24年4月～12月供給実績値より算出(×12月/9月)

免疫グロブリン製剤の供給量と自給率



血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給量(遺伝子組換え型含む) と国内血漿由来製剤の割合



需給計画の状況(平成23年度～平成25年度)

(平成23年度)

製剤名	換算規格	平成23年度									
		計画			実績						
		製造・輸入 国内血漿由来	供給 国内血漿由来	国内自給率	製造・輸入 国内血漿由来	供給 国内血漿由来	国内自給率				
アルブミン	25% 50ml 1瓶	2,924,200	1,684,100	3,093,000	1,798,100	58.4%	2,874,263	1,682,980	2,884,530	1,686,035	58.5%
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	5,200	5,200	4,200	4,200	100.0%	5,442	5,442	6,394	6,394	100.0%
組織接着剤	cmf	11,127,600	5,640,000	11,177,200	5,305,500	47.5%	11,874,343	5,259,570	11,252,825	5,336,730	47.4%
血液凝固第Ⅲ因子 ※	1000単位 1瓶	459,800	100,000	434,500	94,700	21.8%	499,820	97,850	448,392	85,295	19.0%
乾燥凍結人血液凝固第Ⅲ因子 ※	1000単位 1瓶	78,200	39,700	75,400	43,600	57.6%	85,013	50,907	73,281	41,558	56.7%
インヒビター製剤 ※	延人数	18,200	0	16,700	0	0.0%	19,791	0	20,778	0	0.0%
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第Ⅲ因子	1瓶	112,000	0	128,500	0	0.0%	132,298	0	112,273	0	0.0%
トロンピン	10000単位 1瓶	19,400	19,400	21,200	21,200	100.0%	14,027	14,027	17,853	17,853	100.0%
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,678,200	1,560,200	1,663,900	1,542,500	92.7%	1,689,524	1,610,430	1,657,072	1,578,638	95.3%
抗Hbs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	22,600	400	18,300	400	2.2%	20,633	485	16,793	335	2.0%
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	14,000	0	9,700	0	0.0%	10,298	0	11,231	0	0.0%
乾燥傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	47,400	0	65,700	0	0.0%	63,762	0	68,784	0	0.0%
乾燥凍結人アンチトロンピンⅢ	500単位 1瓶	436,600	436,600	427,600	427,600	100.0%	431,621	431,621	448,140	448,140	100.0%
乾燥凍結人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	0	0	100	100	100.0%	0	0	240	240	100.0%
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	37,300	37,300	41,600	41,600	100.0%	39,656	39,656	39,295	39,295	100.0%
乾燥凍結人C ₃ -インヒビター	1瓶	3,500	0	3,100	0	0.0%	1,158	0	1,418	0	0.0%

※：遺伝子組換え製剤を含む。

(平成24年度)

製剤名	換算規格	平成24年度									
		計画					実績(平成24年4月～12月)				
		製造・輸入 計	国内自給率	供給 国内自給率	国内自給率	製造・輸入 計	国内自給率	供給 国内自給率	国内自給率		
アルブミン	25% 50ml 1瓶	3,193,400	1,924,800	3,171,100	1,815,200	57.1%	2,052,508	1,220,290	2,243,993	1,305,606	58.2%
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	5,500	5,500	5,600	5,600	100.0%	4,199	4,199	4,978	4,978	100.0%
組織接着剤	cmf	12,848,200	6,090,000	12,248,500	5,383,500	44.0%	8,535,627	4,131,520	9,071,730	3,992,430	44.0%
血液凝固第Ⅲ因子 ※	1000単位 1瓶	449,700	76,300	419,800	84,400	20.1%	349,319	48,443	393,697	66,336	16.9%
乾燥凍結人血液凝固第Ⅲ因子 ※	1000単位 1瓶	99,300	46,800	82,000	39,700	48.4%	44,368	23,412	57,148	24,433	42.8%
インヒビター製剤 ※	延人数	18,300	0	17,500	0	0.0%	19,884	0	20,443	0	0.0%
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第Ⅲ因子	1瓶	136,000	0	126,000	0	0.0%	82,573	0	100,992	0	0.0%
トロンピン	10000単位 1瓶	21,800	21,800	21,300	21,300	100.0%	17,225	17,225	15,678	15,678	100.0%
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,801,900	1,684,900	1,737,600	1,630,500	93.8%	1,245,631	1,197,345	1,339,820	1,280,613	95.6%
抗Hb人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	14,900	400	17,900	400	2.5%	15,086	627	13,381	298	2.2%
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	12,600	0	11,500	0	0.0%	10,676	0	9,394	0	0.0%
乾燥傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	79,000	0	67,300	0	0.0%	42,141	0	47,047	0	0.0%
乾燥凍結人アンチトロンビンⅢ	500単位 1瓶	442,800	442,800	438,000	438,000	100.0%	348,053	348,053	335,244	335,244	100.0%
乾燥凍結人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	300	300	300	300	100.0%	347	347	287	287	100.0%
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	39,400	39,400	40,000	40,000	100.0%	26,326	26,326	33,770	33,770	100.0%
乾燥凍結人C ₃ -インヒビター	1瓶	3,200	0	2,900	0	0.0%	2,001	0	1,253	0	0.0%

※：遺伝子組換え製剤を含む。

(平成25年度)

製剤名	換算規格	平成25年度					
		計画			供給		
		製造・輸入	供給	国内自給率	製造・輸入	供給	国内自給率
アルブミン	25% 50ml 1瓶	3,070,900	1,835,700	3,028,200	1,765,100	58.2%	58.2%
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	7,500	7,500	6,500	6,500	100.0%	100.0%
組織接着剤	cmf	13,558,400	6,320,000	12,492,100	5,535,000	44.3%	44.3%
血液凝固第Ⅲ因子 ※	1000単位 1瓶	508,700	90,700	506,500	92,200	18.2%	18.2%
乾燥凍結人血液凝固第Ⅲ因子 ※	1000単位 1瓶	96,300	45,800	89,000	40,200	45.2%	45.2%
インヒビター製剤 ※	延人数	23,500	0	25,000	0	0.0%	0.0%
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第Ⅲ因子	1瓶	132,000	0	117,100	0	0.0%	0.0%
トロンピン	10000単位 1瓶	12,600	12,600	17,200	17,200	100.0%	100.0%
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,856,100	1,769,900	1,800,700	1,716,400	95.3%	95.3%
抗Hb人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	15,200	400	17,600	400	2.3%	2.3%
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	14,300	0	11,300	0	0.0%	0.0%
乾燥傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	61,800	0	67,600	0	0.0%	0.0%
乾燥凍結人アンチトロンピンⅢ	500単位 1瓶	439,000	439,000	430,000	430,000	100.0%	100.0%
乾燥凍結人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	0	0	200	200	100.0%	100.0%
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	46,400	46,400	40,000	40,000	100.0%	100.0%
乾燥凍結人C ₃ -インヒビター	1瓶	800	0	1,400	0	0.0%	0.0%

※：遺伝子組換え製剤を含む。

(平成23年度原料血漿確保目標量：95万L) 確保実績：95.7万L

(平成23年度原料血漿配分量)

会社名	計画	実績
(財)化学及血清療法研究所	凝固因子製剤用 20.5万L	20.5万L
	その他の分画用 5.0万L	8.0万L
日本製薬(株)	凝固因子製剤用 14.5万L	14.9万L
	その他の分画用 6.5万L相当	6.7万L相当
(株)ベネシス	凝固因子製剤用 26.0万L	26.0万L
	その他の分画用 20.0万L相当	20.2万L相当
	中間原料PⅣ-4 17.0万L相当	18.0万L相当

(平成24年度原料血漿確保目標量：95万L) 確保実績：80.9万L(4月～1月)

(平成24年度原料血漿配分量)

会社名	計画
(財)化学及血清療法研究所	凝固因子製剤用 15.0万L
	その他の分画用 14.0万L
日本製薬(株)	凝固因子製剤用 8.0万L相当
	その他の分画用 26.0万L
(株)ベネシス	凝固因子製剤用 20.0万L相当
	中間原料PⅣ-4 5.2万L相当

(平成25年度原料血漿確保目標量：92万L)

(平成25年度原料血漿配分量・案)

会社名	計画
(財)化学及血清療法研究所	凝固因子製剤用 19.0万L
	その他の分画用 14.0万L
日本製薬(株)	凝固因子製剤用 13.5万L
(株)日本血液製剤機構	凝固因子製剤用 35.8万L
	その他の分画用 9.7万L